北 海 道 大 学 小 児 科
平成１９（２００７）年度
業 績 集

２００８年１１月発行

北海道大学小児科平成１９（２００７）年度業績集 目次

2007 年度版北大小児科年報の発刊にあたって 3

免疫グループ 4
血液グループ 8
神経グループ 12
腎臓グループ 19
内分泌グループ 21
循環器グループ 23
新生児グループ 26
感染グループ 28
遺伝グループ 30
代謝消化器病グループ.. 32

関連病院
市立札幌病院 35
札幌厚生病院 39
ＫＫＲ札幌医療センター.. 43
天使病院 48
北海道社会保険病院 52
手稲渓仁会病院 55
ＪＲ札幌鉄道病院 59
北海道医療大学病院 63
愛育病院 66
札幌北楡病院 69
楡の会こどもクリニック.. 75
江別市立病院 78
市立美唄病院 81
美唄労災病院 84
市立三笠総合病院 87
市立小樽病院 90
倶知安厚生病院 93
岩内協会病院 96
市立千歳市民病院 99

恵み野病院 102
王子総合病院 105
日鋼記念病院 108
新日鐵室蘭総合病院 111
市立旭川病院 114
北見赤十字病院 117
美幌町立国保病院 121
函館中央病院 124
函館五稜郭病院 127
帯広協会病院 130
帯広厚生病院 133
釧路赤十字病院 136
町立中標津病院 139
市立根室病院 142

2007 年度版北大小児科年報の発刊にあたって

2007 年度版の小児科年報をお届けいたします。どうぞ御一読ください。

北大小児科として、北大関連病院の小児科として、我々の仲間がどの様に活躍し、どの様な成果を上げてきたのかをこの中から読み取っていただけると幸いです。我々もこの年報に記載されている活動を顧み、刺激を受け、さらなる充実した活動を目指すための反省点や改良点を見いだしていきたいと思っています。2007 年度は、前の年度に比べ、より充実した内容になっているでしょうか？そう感じていただけることを期待しています。

さて、新臨床医研修制度が始まってから小児科を含めた多くの分野で医師不足が叫ばれています。この様な実態を配慮し、来年度から各大学ではそれぞれ独自の研修コースを設定することが容認され、北大では小児科重点コースなるものも用意されることになりました。小児科の魅力を出来るだけ早期に理解してもらうことが我々の仲間を増やし、小児科診療体制を充実させる近道だと思っています。定員などにはまだ不満もありますが、この新しい試みが我々にとっても追い風となることを信じています。また、毎年作成しているこの北大小児科年報も小児科診療の充実のために役立つことを信じています。読んでいただいた多くの方に小児科診療の素晴らしさ、やりがいなどを感じてもらえる様な年報を毎年作っていきたいと思っています。

昨年大幅に改定した北大小児科ホームページ：

http://www.med.hokudai.ac.jp/~ped-w/index.html　もだいぶ充実したものになってきました。この年報も近々リンクさせていく予定です。こちらへもお気軽にお訪ねいただける様、お願いいたします。ご意見などいただけると幸いです。

北海道大学大学院医学研究科　病態制御学専攻
生殖発達医学講座　小児科学分野　教授　　有賀　　正

免疫グループ

所属メンバー

・有賀　　正　（教授、昭和53年卒）
・川村　信明　（准教授、昭和54年卒）
・山田　雅文　（助教、平成 2 年卒）
・大倉　有加　（大学院生、平成13年卒）
・竹崎俊一郎　（大学院生、平成13年卒）

外来患者数　　967 人/年

・免疫外来：川村（火・金曜日）、山田（木曜日）
外来患者疾患別割合
1) アレルギー性疾患：12%　（気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎など）
2) リウマチ性疾患　：50%　（若年性特発性関節炎、若年性皮膚筋炎、シェーグレン症候群、全身性エリテマトーデス、混合性結合組織病、周期性発熱、結節性多発動脈炎、炎症性腸疾患など）
3) 免疫不全症　　　：38%　（X 連鎖重症複合免疫不全症、ADA 欠損症、慢性肉芽腫症、X 連鎖無γ-グロブリン血症、高 IgM 症候群、高 IgE 症候群、Wiskott-Aldrich 症候群、慢性皮膚粘膜カンジダ症、DiGeorge 症候群など）

北大病院以外での免疫・アレルギー外来
川村：　帯広厚生病院、静内町立病院、白老町立病院、岩内協会病院
山田：　手稲渓仁会病院

入院患者数　　46 人/年

入院患者疾患内訳
若年性特発性関節炎（全身型・多関節型）、若年性皮膚筋炎、全身性エリテマトーデス、シェーグレン症候群、炎症性腸疾患、X 連鎖重症複合免疫不全症、慢性肉芽腫症、ADA 欠損症、X 連鎖無ガンマグロブリン血症、高 IgM 症候群、Wiskott-Aldrich 症候群、T 細胞機能不全症、慢性良性好中球減少症、Common Variable Immunodeficiency

研究内容

・ADA 欠損症に対する遺伝子治療臨床研究
・原発性免疫不全症候群の病態解析・遺伝子解析・臨床研究
・自己免疫疾患の病態解析・遺伝子解析・臨床研究
・アレルギー性疾患の病態解析・臨床研究
・自己炎症性症候群の遺伝子解析
・先天性歯牙異常の遺伝子解析

競合的外部資金

・厚生労働省科学研究費：原発性免疫不全症候群に関する調査研究（有賀　正；分担）
・厚生労働省科学研究費：小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究（有賀　正；分担）
・厚生労働省科学研究費「難治性先天異常症の克服に向けた包括的遺伝子医療体制の確立に関する研究」（有賀　正；分担）
・文部科学省研究拠点形成費　21 世紀 COE プログラム（有賀　正；分担）
・秋山記念生命科学研究助成金（山田雅文）

論文・著書など

1. Sato D, Shimokawa O, Harada N, Olsen OE, Hou J-W, Muhlbauer W, Blinkenberg E, Okamoto N, Kinoshita A, Matsumoto N, Kondo S, Kishino T, Miwa N, Ariga T, Niikawa N and Yoshiura K: Congenital Arhinia: Molecular-genetic Analysis of Five Patients. Am J Med Genet 143A: 546-552, 2007
2. Toita N, Hatano N, Ono S, Yamada M, Kobayashi R, Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Satoh A, Nakagawa A, Ohshima K, Shindoh M, Takami T, Kobayashi K and Ariga T: Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoma in a patient with DNA ligase IV (LIG4) syndrome. Am J Med Genet Part A 143A: 742-745, 2007
3. Minegishi Y, Saito M, Tsuchiya S, Tsuge I, Takada H, Hara T, Kawamura N, Ariga T, Pasic S, Stojkovic O, Metin A and Karasuyama H: Dominant-negative mutations in the DNA-binding domain of STAT3 cause hyper-IgE syndrome. Nature 448: 1058-1062, 2007
4. Ebihara T, Masuda H, Akazawa T, Shingai M, Kikuta H, Ariga T, Matsumoto M and Seya T: Induction of NKG2D ligands on human dendritic cells by TLR ligand stimulation and RNA virus infection. Int Immunol 19: 1145-55, 2007
5. Kida M, Fujioka H, Kosaka Y, Hayashi K, Sakiyama Y and Ariga T: The first confirmed case with C3 deficiency caused by compound heterozygous mutations in the C3 gene; a new aspect of pathogenesis for C3 deficiency. Blood Cell Mol Dis 40: 410-413, 2008
6. Fujioka H, Ariga T, Horiuchi K, Ishikiriyama S, Oyama K, Otus M, Kawashima K, Yamamoto Y, Sugihara T and Sakiyama Y: Detection of a novel silent deletion, a missense mutation and a nonsense mutation in the TCOF1 gene. Pediatr Int (in press)
7. 今井耕輔、辻陽一郎、子川和宏、野々山恵章、有賀　正、久間木悟、土屋　滋、森尾友宏、蒲池吉朗、上松一永、高田英俊、金兼弘和、宮脇利男：日本における重症複合免疫不全症に対する造血幹細胞移植の後方視的検討と治療ガイドラインの策定．厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 18 年度総括・分担研究報告書: 29-32, 2007

8. 戸板成昭: 全身型若年性特発性関節炎とその類似疾患に関する臨床的研究. 北海道医学雑誌 82: 61-68, 2007
9. 有賀　正: 神経疾患に対する遺伝子治療の可能性. 発達障害研究 29: 36-39, 2007
10. 有賀　正、川村信明: 免疫疾患の登録・評価・情報提供に関する研究. 法制化前後の登録状況の解析と評価、厚生労働科学研究費補助金（子ども家庭総合研究事業）小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究　平成 19 年度総括・分担研究報告書: 139-144, 2008
11. 山田雅文、大倉有加、竹崎俊一郎、川村信明、有賀　正: 正常細胞分画を有する X 連鎖性慢性肉芽腫症のモザイク例. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 19 年度総括・分担研究報告書: 29-31, 2008
12. 有賀　正: 原発性免疫不全症. 今日の治療指針　2007 年度版 私はこう治療している（医学書院 東京都）: 975-976, 2007
13. 有賀　正: 原発性免疫不全症に対する遺伝子治療に付いて. 北海道日独協会会報 24: 46-50, 2007
14. 有賀　正: 感染を繰り返す 症候から見た小児科の診断学. 小児科診療増刊号: 31-34, 2007
15. 有賀　正: 原発性免疫不全症とリバージョン； 適応の破綻とその修復のモデルとして. J Adaptation Med（適応医学）11: 27-33, 2007

学会発表

全国学会

1. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、小林良二、川村信明、小林一郎、岡野素彦、小林邦彦、有賀　正: B-cell lymphoma を合併した DNA Ligase Ⅳ syndrome の一例. 第 110 回日本小児科学会、京都市、2007
2. 貴田みゆき、堤　智紀、崎山幸雄、有賀　正: 遺伝子解析にて新奇の DSPP 変異を検出した遺伝性象牙質形成不全症一家系. 第 45 回日本小児歯科学会大会、東京都、2007
3. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、川村信明、有賀　正: 診断に苦慮した小児 Castleman 病の 1 例. 第 19 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、札幌、2007
4. 竹崎俊一郎、大倉有加、山田雅文、川村信明、有賀　正: IVIG 大量療法を施行した若年性皮膚筋炎の 1 例. 第 59 回北日本小児科学会、弘前、2007
5. 大倉有加、竹崎俊一郎、山田雅文、川村信明、有賀　正: 全身型若年性特発性関節炎の関節予後因子の検討. 第 17 回日本小児リウマチ学会、横浜、2007
6. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、川村信明、有賀　正: 腫瘤内 IL-6 発現増強を確認しえた小児 Castleman 病の 1 例. 第 35 回日本臨床免疫学会、大阪、2007
7. 竹崎俊一郎、大倉有加、山田雅文、川村信明、有賀　正: 難治性腸炎を合併した慢性肉芽腫症の 1 例. 第 39 回日本小児感染症学会、横浜、2007
8. 山崎康博、藤原伸一、松本憲則、峰岸克行、山田雅文、川村信明、有賀　正: STAT3 遺伝子異常を同低した高 IgE 症候群の一例. 第 15 回食細胞機能異常症研究会、東京、2007

9. 竹崎俊一郎、大倉有加、山田雅文、川村信明、有賀　正: 慢性肉芽腫症関連腸炎の組織検体を用いた病態解析. 第 1 回日本免疫不全症研究会、東京、2008
10. 竹崎俊一郎、大倉有加、山田雅文、川村信明、有賀　正: IVIG 大量療法を施行した若年性皮膚筋炎の 1 例. 第 20 回北海道小児リウマチ性疾患研究会、札幌、2008

国際学会

1. Ariga T: International Symposium: Gene Therapy Clinical Trials from Around the Globe, Hematopoietic stem cell gene therapy for two patients with adenosine deaminase (ADA) deficiency without myelopreparative conditioning; a suggestion for the optimal protocol for HSC gene therapy for ADA deficiency. The 10th Annual Meeting of American Society of Gene Therapy、Seattle (USA)、2007
2. Kida M, Sakiyama Y, Matsuda A, Takabayashi S, Ochi H, Sekiguchi H, Minamitake S and Ariga T: A novel AMELX Mutation (p.P52R) Causing X-linked AI. International Association of Pediatric Dentistry (IAPD)、Hong Kong、2007
3. Ariga T: Hematopoietic stem cell (HCS) gene therapy for two patients with adenosine deaminase (ADA) deficiency without cytoreductive conditioning; a suggestion for the optimal protocol for HSC gene therapy for ADA deficiency. Symposium VI Immune deficiency syndromes. The IVth Conference on Stem Cell Gene Therapy、Halkidiki, Thessaloniki, Greece、2007/9/13-17

講演・シンポジウムなど

1. 有賀　正: 免疫不全症とリバージョン. 第11回日本適応医学会、シンポジウム「適応の破綻と修復」、札幌市、2007
2. 有賀　正: 遺伝子治療の実際；アデノシンデアミナーゼ欠損症の遺伝子治療に関して. シンポジウム 現代医療における生命倫理、第37回医学系大学倫理委員会連絡会議、川崎市、2007
3. 貴田みゆき、崎山幸雄、有賀　正: エナメル質および象牙質の遺伝性形成異常における分子遺伝学的研究. 第52回日本人類遺伝学会、東京、2007
4. 有賀　正: 北海道の小児科医師の集約化. 市民公開フォーラム「北海道のお産をめぐる現状と課題」平成19年度厚生労働省科学研究費補助金「子ども家庭総合事業」、札幌、2007

血液グループ

所属メンバー

・金田　　眞　（助教、平成 5 年卒）
・市川　瑞穂　（大学院生、平成 12 年卒）
・鈴木　大介　（大学院生、平成 12 年卒）
・稲本　　潤　(大学院生、平成 13 年卒)

外来患者数　　972 人/年

入院患者数　　62 人/年

その他の特色ある診療内容

初発患者の疾患

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
ALL	9	10	9	7	10	9	9	8
AML	0	2	5	4	4	6	3	1
悪性リンパ腫	1	2	2	1	0	1	1	2
再生不良性貧血	3	3	3	0	3	2	2	2
神経芽腫	4	1	4	5	5	5	4	3
Wilms 腫瘍	2	1	2	1	3	1	2	1
横紋筋肉腫	0	1	1	1	0	0	0	1
肝芽腫	1	1	0	0	1	0	1	0
網膜芽細胞腫	0	0	0	0	0	0	0	4
PNET	0	3	0	0	0	0	1	0
LCH	0	1	0	0	1	0	3	3
脳腫瘍	0	0	0	0	0	0	0	4
Donor	6	5	6	1	2	3	4	2

(注) PNET：primitive neuroectodermal tumor　LCH：ランゲルハンス細胞組織球症

移植

	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19
Allo BMT(unrelated)	3	5	3	4	3	5	4	0
Allo BMT(related)	4	5	5	1	2	4	4	2
Allo PBSCT	2	0	1	0	0	0	0	0
CBSCT	2	3	1	4	11	7	11	4
Auto BMT	0	0	0	1	0	1	1	0
Auto PBSCT	0	0	3	0	0	0	0	2

研究内容

臨床研究・造血幹細胞移植の合併症と予後
・白血病における tumor lysis と予後の関係
・小児腫瘍性疾患における抗生剤・抗真菌剤の有効性の検討など

論文・著書など

1. Sato T, Kobayashi R, Toita N, Kaneda M, Hatano N, Iguchi A, Kawamura N and Ariga T: Stem cell transplantation in primary immunodeficiency disease patients. Pediatric international 49: 795-800, 2007
2. 小林良二、内田麻子、市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、中嶋雅秀、三野絵美、鈴木秀久、金田　眞、佐々木了: 顔面発症の Primitive neuroectodermal tumor (PNET)症例. 小児がん 44: 50-54, 2007
3. Kobayashi R, Kaneda M, Sato T, Suzuki D, Ichikawa M and Ariga T: Evaluation of risk factors for invasive fungal infection after allogeneic stem cell transplantation in pediatric patients. J Pediatr Hematol Oncol 29: 786-791, 2007
4. Toita N, Hatano N, Ono S, Yamada M, Kobayashi R, Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Satoh A, Nakagawa A, Ohshima K, Shindoh M, Takami T, Kobayashi K and Ariga T. Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoma in a patient with DNA ligase IV (LIG4) syndrome. Am J Med Genet A 143: 742-745, 2007
5. Moriuchi R, Shibaki A, Yasukawa K, Onozuka T, Sato T, Kaneda M, Iguchi A, Kobayashi R and Shimizu H: Neonatal vesiculopustular eruption of the face: a sign of trisomy 21-associated transient myeloproliferative disorder. Br J Dermatol 156: 1373-1374, 2007
6. Suzuki D, Kobayashi R, Kaneda M, Sato T, Ichikawa M and Ariga T: Severe phimosis as a notable sequela of allogeneic stem cell transplantation in boys. Bone Marrow Transplantation 40: 335-338, 2007
7. 小林良二、鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田　眞. 小児造血幹細胞移植における micafungin による侵襲性真菌感染症予防の検討. 日本小児血液学会誌 21: 227-231, 2007

8. 佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、中川温子、小林良二、有賀　正: 化学療法中に巨大な真菌性脳膿瘍と侵襲性肺真菌症を発症した小児骨髄性白血病. 臨床血液 48: 1549-1554, 2007

学会発表

国際・全国学会

1. 小林良二、鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田　眞、有賀　正: 造血幹細胞移植後の侵襲性真菌症を合併した症例の検討. 真菌症フォーラム第 8 回学術集会、神戸市、2007/2/10
2. 佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、小林良二、有賀　正: 化学療法中にアスペルギルスによる脳膿瘍と侵襲性肺アスペルギルス症を発症した小児急性骨髄性白血病の 1 例. 真菌症フォーラム第 8 回学術集会、神戸市、2007/2/10
3. 市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、金田　眞、小林良二、有賀　正: 化学療法中に Candida Krusei による真菌血症を併発し voriconazole と micafungin の併用療法が有効であった Ewing 肉腫の 1 例. 真菌症フォーラム第 8 回学術集会、神戸市、2007/2/10
4. 佐藤智信、市川瑞穂、鈴木大介、金田　眞、小林良二、有賀　正: 原発性免疫不全症 9 例に対する造血幹細胞移植の検討. 第 29 回日本造血細胞移植学会、福岡市、2007/2/17
5. 鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田　眞、小林良二、有賀　正: 造血幹細胞移植後に合併した真性包茎の検討. 第 29 回日本造血細胞移植学会、福岡市、2007/2/17
6. 小林良二、佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、小林穂高、長　祐子、飯塚　進: 非血縁者間骨髄移植生着不全の後に臍帯血移植で救命し得た再生不良性貧血症例. 第 14 回小児再生不良性貧血研究会、名古屋市、2007/6/2
7. 澤村　豊、鴨嶋雄大、吉野雅美、山口　秀、金田　眞、杉山一彦: 髄芽腫に対する neoadjuvant therapy の試み. 第 49 回日本小児血液学会・第 23 回日本小児がん学会学術集会、仙台市、2007/12/16
8. 吉野雅美、澤村　豊、山口　秀、鴨嶋雄大、岩崎喜信、金田　眞: 小児脳腫瘍に伴う水頭症の長期体外ドレナージを用いた管理. 第 49 回日本小児血液学会・第 23 回日本小児がん学会学術集会、仙台市、2007/12/16

地方学会

1. 鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田　眞、小林良二: 眼窩および骨盤内の巨大腫瘤で発症した precursor B lymphoblastic lymphoma の 1 例. 北海道小児悪性リンパ腫講演会、札幌市、2007/1/13
2. 市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、金田　眞、小林良二: 移植後早期にサイトメガロウイルス腸炎に罹患し拒絶に至った慢性肉芽腫症の 1 症例. 第 15 回北海道小児血液セミナー、札幌市、2007/2/2
3. 筌場友佳代、市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、金田　眞、小林良二、有賀　正、稲本潤、小関直子、中嶋雅秀、佐竹　明、小西貴幸、岡田忠雄、佐々木文章: 膵原発 ACTH 産生腫瘍の 1 例. 第 32 回北海道小児がん研究会、札幌市、2007/3/2

4. 鈴木大介、稲本　潤、市川瑞穂、金田　眞、有賀　正: 化学療法中に著明な筋力低下をきたした急性リンパ性白血病の 1 例. 第 16 回北海道小児血液セミナー、旭川市、2007/9/28
5. 市川瑞穂、稲本　潤、鈴木大介、金田　眞、有賀　正: 気道狭窄で発症した急性リンパ性白血病の 1 例. 第 24 回北海道小児血液研究会、札幌市、2007/11/17

社会貢献

金田　眞

研究会

小児白血病研究会(JACLS)(運営委員)

委員会

日本小児白血病リンパ腫研究グループ(JPLSG)　JMML 委員会委員

小児白血病研究会(JACLS)　ALL 小委員会委員

その他

北海道血液同好会監事

北海道小児血液研究会幹事

北海道小児がん研究会幹事

北海道血友病研究会幹事

神経グループ

所属メンバー

・斉藤　伸治　（講師、昭和60年卒）
・白石　秀明　（医員、平成4年卒）
・朝比奈直子　（大学院博士課程4年、平成9年卒）
・末田慶太朗　（大学院博士課程2年、平成11年卒）
・柳生　一自　（大学院博士課程2年、平成12年卒）
・細木　華奈　（実験助手）
・香坂　　忍　（非常勤、昭和52年卒）

入院患者　　のべ計　93人

＜疾患別＞

てんかん・けいれん性疾患 : 45例 (症候性局在関連てんかん 31、症候性全般てんかん 4、WEST症候群 5、小児良性てんかん3)
ミトコンドリア病 : 10例（MELAS 8、Leigh脳症 2）
神経筋疾患 : 4例（先天性筋症 4）
代謝・遺伝・変性疾患 : 16例（Rett症候群1、ジストニア 2、白質変性症 5、CDG2例、Sturge-Weber症候群2、結節性硬化症1、MCT8異常症1、その他2）
重症心身障害児 : 5例
広汎性発達障害 : 2例
睡眠時無呼吸 : 4例
脳奇形 : 3例
身体表現性障害 : 3例
その他 ; 11例

＜検査別＞

長時間脳波 : 14例
SpO2, EtCO2 モニター : 6例

外来診療

新患患者数 : 145人　（約2.8人/週）
月曜・火曜神経外来、水曜新来神経（斉藤）: 1420人
火曜神経外来（朝比奈・白石）: 375人
水曜神経外来（白石）: 683人
水曜神経外来（香坂）: 180人
（以上、神経専門外来合計　2658人）
神経処方外来（月、水午前）: 929人
（以上の総計　3587人）（69人/週）

脳磁図解析件数：64件（内訳はPE 60件、SGE 3件、IGE 1件、UDE 0件）
頭蓋内脳波検査：7例
当科で評価し、てんかん外科手術に至った患者数：13例
脳波検査総数（平成18年4月から平成19年3月）：一般脳波：外来573件、入院41件、
終夜脳波：26件、計640件

治験

レベチラセタム（抗てんかん薬：UCB Pharma）：7名

関連病院神経外来

○斉藤担当
天使病院：毎月第 2 火曜日午後：20 人前後
北見赤十字病院：毎月 1 回木曜～金曜：50～60 人前後
小樽市立病院：隔月第 3 火曜日午後：10～20 人前後
札幌厚生病院：隔月第 3 火曜日午後：5 人前後＋脳波判定
帯広協会病院：3 か月に 1 回金曜日全日：10 人前後＋脳波判定
中標津町立病院：6 か月に 1 回木金曜日 2 日間：10 人前後＋脳波判定
○香坂担当
千歳市民病院：毎月 1 回：10～15 人前後
室蘭新日鉄病院：毎月 1 回：10～15 人前後
○白石担当
手稲渓仁会病院：毎月2-3回木曜全日：20～25人前後
日鋼記念病院：毎月1回第4金曜全日：30～40人前後
千歳市民病院：毎月1回第2金曜全日：30～40人前後
市立根室病院：3か月に 1 回木曜午後～金曜午前：40～60人前後
岩内協会病院：3か月に 1 回第3金曜午後：1回10～20人
美唄労災病院：年2回火曜午後：10人前後
○朝比奈担当
天使病院：毎月第4木曜日午後：10～20人前後
KKR札幌医療センター：毎月第2、4金曜日午後：10～20人前後
○末田担当
日鋼記念病院：1月1回：10人前後
楡の会こどもクリニック：1月1回：5人前後
札幌市児童相談所：1 月 1 回：6 人前後
○柳生担当
手稲渓仁会病院：毎月1回木曜全日：10～20人前後
楡の会こどもクリニック：1 月 1 回：5 人前後
札幌市児童相談所：1 月 1 回：6 人前後

研究室での遺伝子解析・他施設からの依頼分

Prader-Willi症候群の遺伝学的解析：24件（15番染色体異常の解析3件を含む）

Angelman症候群の遺伝学的解析：21件

14番染色体片親性ダイソミーの遺伝学的解析：4件

競争的外部資金・研究費

・科学研究費基盤研究 C：白石秀明「小児てんかん症例における空間フィルター法を用いた７脳磁場解析」平成 19 年度研究費：1,700 千円

・国立精神・神経センター精神・神経疾患研究委託費（精神遅滞リサーチ・リソースの拡充と病因・病態解明をめざした遺伝学的研究：後藤班）：斉藤伸治（分担研究者）「精神遅滞をきたす遺伝性疾患の分子遺伝学的研究」平成19年度研究経費：1,200千円

論文・著書など

1. 斉藤伸治: 分子遺伝学による発達障害学の展開. 発達障害研究 29: 1-8, 2007
2. 斉藤伸治: 発達障害学の遺伝学的基盤. LD 研究 16: 10-15, 2007
3. Takano K, Okajima M and Saitoh S: DNA demethylation reactivation of imprinted genes in cell-lines from patients with Prader-Willi syndrome and a mouse model. Am J Med Genet A 143A: 1386-1390, 2007
4. Shiraishi H, Takano K, Shiga T, Okajima M, Sudo A, Asahina N, Kohsaka S, Fukuhara M and Saitoh S: Possible involvement of the tip of temporal lobe in Landau-Kleffner syndrome. Brain Dev 29: 529-533, 2007
5. Kato M, Saitoh S, Kamei A, Shiraishi H, Ueda Y, Akasaka M, Tohyama J, Akasaka N and Hayasaka K: A Longer Polyalanine Expansion Mutation in the ARX Gene causes Early Infantile Epileptic Encephalopathy With Suppression-Burst Pattern (Ohtahara Syndrome). Am J Hum Genet 81: 361-366, 2007
6. 白石秀明、竹内文也、 江川　潔、 末田慶太朗、 朝比奈直子、 香坂　忍、 中根進児、斉藤伸治: 全てのてんかん症例に対する適応を目指して. CI 研究 29: 43-49, 2007
7. 白石秀明、竹内文也、 江川　潔、 末田慶太朗、 朝比奈直子、 香坂　忍、 中根進児、斉藤伸治: てんかん症例における脳磁律動波に対する周波数解析の試み. てんかんをめぐって XXVI: 31-36, 2007
8. Saitoh S, Hosoki K, Takano K and Tonoki H: Mosaic paternally derived inv dup(15) may partially rescue the Prader-Willi syndrome phenotype with uniparental disomy. Clin Genet 72: 378-380, 2007
9. Shiraishi H, Egawa K, Asahina N, Nakane S, Udo Y, Satake A, Kohsaka S and Saitoh S: Long-term sequential magnetoencephalographic analyses for patients with atypical benign partial epilepsy in childhood. International Congress Series 1300: 689-692, 2007

10. 斉藤伸治: プラダー・ウイリー症候群とアンジェルマン症候群の遺伝学と臨床—小児神経疾患の系統的遺伝学的診断のモデルとして. 日本小児科学会雑誌 111: 1143-1149, 2007
11. Tajima T, Fujiwara F, Sudo A, Saitoh S and Fujieda K: A Japanese patient of congenital hypothyroidism with cerebellar atrophy. Endocr J 54: 941-944, 2007
12. Asahina N, Shiga T, MD, Egawa K, Shiraishi H, Kohsaka S and Saitoh S : [^{11}C]Flumazenil PET Analyses of Brain $GABA_A$ Receptors in Angelman Syndrome. J Pediatr 152: 546-549, 2008
13. Egawa K, Asahina N, Shiraishi H, Kamada K, Takeuchi F, Nakane S, Sudo A, Kohsaka S and Saitoh S: Aberrant Somatosensory Evoked Responses Imply GABAergic Dysfunction in Angelman Syndrome. Neuroimage 39: 593-599, 2008
14. Hosoki K, Ogata T, Kagami M, Tanaka T and Saitoh S: Epimutation (hypomethylation) affecting the chromosome 14q32.2 imprinted region in a girl with upd(14)mat-like phenotype. Eur J Hum Genet (in press), 2008
15. Yabe I, Kitagawa M, Suzuki Y, Fujiwara K, Wada T, Tsubuku T, Takeichi N, Sakushima K, Soma H, Tsuji S, Niino M, Saitoh S and Sasaki H: Downbeat positioning nystagmus is a common clinical feature despite variable phenotypes in an FHM1 family. J Neurol (in press), 2008
16. 柳生一自、石川　丹: アテトーゼ型脳性麻痺、精神遅滞をもつ若年男性の転換性障害に対して心理療法、ケースワークを行い改善した 1 例. 小児科臨床 60: 1667-1671, 2007
17. 柳生一自、石川　丹: バルプロ酸投与にて Fanconi 症候群を発症した重症心身障害児の 1 例.臨床小児医学 55: 112-116, 2007

学会発表

1. 斉藤伸治、細木華奈、末田慶太朗、朝比奈直子、白石秀明: アンジェルマン症候群 UBE3A 変異例の臨床症状. 第 30 回日本小児遺伝学会、京都、2007/4/13
2. 斉藤伸治、江川　潔、細木華奈、朝比奈直子、白石秀明: アンジェルマン症候群の中枢神経障害に関する集学的解析. 第 110 回日本小児科学会、京都、2007/4/20-22
3. 斉藤伸治、細木華奈 : Angelman 症候群と Prader-Willi 症候群における刷り込み変異、第 1 回日本エピジェネティクス研究会、平成 19 年 6 月 15-16 日（大阪）
4. 末田慶太朗、竹内文也、白石秀明、中根進児、朝比奈直子、香坂　忍、斉藤伸治: 限局性皮質病変を有する症候性局在関連てんかん症例における発作間欠時律動性棘波の脳磁図解析—周波数解析を用いた検討（第 2 報）－. 第 22 回日本生体磁気学会、岡崎、2007/6/21-23
5. 和田敬仁、斉藤伸治、後藤雄一: 日本人家族性精神遅滞症例における ATRX 遺伝子変異スクリーニング. 第 49 回日本小児神経学会、大阪、2007/7/5-7
6. 植田佑樹、植竹公明、末田慶太朗、江川　潔、朝比奈直子、白石秀明、加藤光広、斉藤伸治: *ARX* 遺伝子ポリアラニン伸長変異による早期乳児てんかん性脳症の一例. 第 49 回日本小児神経学会、大阪、2007/7/5-7

7. 朝比奈直子、松波由貴子、末田慶太朗、縄手　満、白石秀明、香坂　忍、斉藤伸治: ポリオワクチン関連ポリオ様麻痺が疑われた 1 乳児例. 第 49 回日本小児神経学会、大阪、2007/7/5-7
8. Sueda K, Takeuchi F, Shiraishi H, Nakane S, Asahina N, Yagyu K, Kohsaka S and Saitoh S: Magnetoencephalograhpic analyses for interictal rhythmic spikes in patient with symptomatic localization related epilepsy induced by circumscribed cortical lesions using time-frequency analysis. First conference of international society for the advancement of clinical magnetoencephalography、Matsushima, Japan、2007/8/27-30
9. 細木華奈、斉藤伸治: Pradeir-Willi 症候群疑い患者に同定された 14 番染色体母性片親性ダイソミー及び関連疾患. 第 52 回日本人類遺伝学会、東京都、2007/9/13-15
10. 末田慶太朗、柳生一自、朝比奈直子、白石秀明、香坂　忍、斉藤伸治: 限局性皮質形成異常を有する症候性局在関連てんかんにおける発作間欠時律動性棘波の脳磁図解析. 第 59 回北日本小児科学会、弘前、2007/9/16
11. 矢部一郎、相馬広幸、辻　幸子、新野正明、和田敬仁、斉藤伸治、北川まゆみ、佐々木秀直: 多彩な臨床像を呈した家族性片麻痺性片頭痛 I 型の 1 家系. 第 35 回日本頭痛学会、東京都、2007/11/10-11
12. Wada T and Saitoh S: Clinical phenotype of adult patients with X-linked a-thalassemia/ Mental Retardation Syndrome (ATR-X). 13th International Workshop on Fragile X and X-linked Mental Retardation、Venice, Italy、2007/10/3-6
13. Goto Y-I, Nakagawa E, Takano K, Inazawa J, Okazawa H, Kato M, Kubota T, Kurosawa K, Saitoh S, Nanba E, Matsumoto N, Toda T and Wada T (Japan Mental Retardation Research Consortium): Construction of research resource depository in Japan and molecular genetic study on genetic diseases with mental retardation. 13th International Workshop on Fragile X and X-linked Mental Retardation、Venice, Italy、2007/10/3-6
14. Wada T, Saitoh S, Fukushima Y: Clinical phenotype of adult patients with X-linked α-thalassemia/ Mental Retardation Syndrome (ATR-X). 57th Annual Meeting of American Society of Human Genetics、San Diego, USA、2007/10/23-27
15. Saitoh S and Hosoki K: Maternal uniparental disomy 14 detected in patients who were suspected to have Prader-Willi syndrome. 57th Annual Meeting of American Society of Human Genetics、San Diego, USA、2007/10/23-27
16. 末田慶太朗、竹内文也、白石秀明、中根進児、柳生一自、朝比奈直子、香坂　忍、斉藤伸治: 限局性皮質病変を有する症候性局在関連てんかん症例に対する周波数解析による発作間欠時律動棘波の脳磁図解析. 第 37 回日本臨床神経生理学会、宇都宮、2007/11/21-23
17. 柳生一自、末田慶太朗、朝比奈直子、白石秀明、香坂　忍、斉藤伸治: 発作時脳磁図において周波数解析が有効であった頭頂葉てんかんの二例. 第 1 回日本てんかん学会地方会、札幌市、2008/2/17

18. 柳生一自、末田慶太朗、朝比奈直子、白石秀明、香坂　忍、斉藤伸治、梶井直文、高橋有美、石川　丹:重度精神運動遅滞を来した monocarboxylate trasporter 8 (MCT8) 異常症の 1 例. 第 11 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2007/3/8

講演・シンポジウム

1. 斉藤伸治: 小児神経疾患の系統的分子遺伝学的診断. 第 110 回日本小児科学会ランチョンセミナー、京都、2007/4/20-22
2. 斉藤伸治: 新生児期の遺伝カウンセリング. 平成19年度北海道周産期談話会、札幌市. 2007/7/21
3. 白石秀明: 小児てんかん症例に対する脳磁場解析の展開. 第19回九州臨床神経生理研究会、熊本、2007/8/19
4. Shiraishi H(invited speaker): Graded magnetoencephalographic analysis for patients with epilepsy - For the global application for every patient with epilepsy-. Matsushima, Japan、2007/8/30
5. 斉藤伸治: 小児神経疾患の遺伝学的診断. 千歳・恵庭小児科医会、千歳市、2007/9/7
6. 斉藤伸治（シンポジスト）: An epileptic disease with genomic imprinting disorder: Angelman syndrome. シンポジウム: Understanding of defects in epigenetics in neurodevelopmental diseases、第30回日本神経科学学会、第50回日本神経化学学会、第17回日本神経回路学会合同集会（Neuro2007）、横浜市、2007/9/10
7. 白石秀明: 小児てんかん症例に対する脳磁場解析の展開. 第63回北海道てんかん懇話会、札幌市、2007/9/29
8. 白石秀明: 全般性てんかんか、局在関連てんかんか？. 第66回日本脳神経外科学会総会、東京都、2007/10/4
9. 白石秀明: 粗大な皮質病変に由来する前頭葉てんかん小児例に対する磁場解析の試み－広汎に出現する律動性磁場活動をどのように表現し評価するか－. 第41回日本てんかん学会 サテライトセミナー、福岡、2007/11/1
10. 白石秀明（シンポジスト）: 脳磁場計測によるてんかん原性領域同定の試み -周波数解析を用いた律動性磁場活動の局在推定-. 第41回日本てんかん学会 神経科学セッション、福岡、2007/11/2
11. 白石秀明: 小児てんかん症例に対する、脳磁場解析を用いたてんかん原性領域の検討. てんかん治療研究振興財団研究褒賞受賞記念報告、大阪、2008/3/7

社会貢献

○斉藤伸治

学会委員：

日本小児神経学会（評議員、教育委員、社会活動委員）

日本人類遺伝学会（評議員）

日本小児神経学会北海道地方会（副会長）

その他：

北海道特定疾患対策協議会 審査専門委員会委員

北海道社会福祉審議会臨時委員

拓北養護学校校医

○白石秀明

学会委員：

日本臨床神経生理学会（脳磁図検査法に関する委員会委員）

日本生体磁気学会（評議員）

腎臓グループ

所属メンバー

・佐々木　聡　（講師、昭和 61 年卒）
・中島　泰志　（医員、平成 5 年卒）
・伊東　広臨　（大学院生、平成 12 年卒）

外来患者数　874 人/年

入院患者数　41 人/年

関連病院腎臓外来　道内 11 カ所
腎生検診断　38 例/年
腎不全(保存期、透析患者)・移植関連患者（移植後含）　20 例/年

研究内容

・全国多施設研究による小児難治性腎疾患（ネフローゼ症候群、IgA 腎症、ループス腎炎）の治療開発
・小児腎不全管理、腎移植治療
・ネフローゼ症候群・糸球体硬化の進展機序解明と治療法開発に関する基礎的研究
・尿細管間質障害発症・進展機序解明に関する基礎的研究
・腹膜硬化症（腹膜透析合併症)の発症・進展機序に関する基礎的研究

競合的外部資金

・厚生労働省科学研究費補助金（佐々木、研究協力者）
・日本学術振興会科学研究費補助金（佐々木、主任研究者）

発表論文

1. Ishikura K, Ikeda M, Hattori S, Yoshikawa N, Sasaki S, Iijima K, Nakanishi K, Yata N and Honda M: Effective and safe treatment with cyclosporine in nephrotic children: a prospective, randomized multicenter trial. Kidney Int 73, 1167: 2008
2. 佐々木聡: [腎・泌尿器疾患治療マニュアル　小児から成人まで主要症候・検査から診断へのアプローチ、身体徴候・検査から腎・尿路系疾患を見つけ出す] 電解質異常 Na, Cl の異常(小児). 日本医師会雑誌 136: S98-S99, 2008

学会発表

1. Nakashima T, Sasaki S, Obikane K, Ito H, Saito S, Takeda A and Ariga T: Peritoneal dialysis (PD) cann preserve quality of life with severe heart failure. The 3rd Asian Chapter Meeting of International Society for Peritoneal Dialysis、Hiroshima、2007
2. 伊東広臨、佐々木聡、田島敏広、中島泰志: WT1 遺伝子スプライス部変異による腎症の多様性を示す 1 例. 第 42 回日本小児腎臓病学会、横浜、2007
3. 荒木義則 (旭川札幌小児ネフロロジーフォーラム)、真鍋博美、佐々木聡: 紫斑病性腎炎(HSPN)の治療選択の多様性と問題点. 第 42 回日本小児腎臓病学会、横浜、2007

講演

1. 佐々木聡: 小児ネフローゼ症候群のシクロスポリン治療-うまく使いこなすためのワンポイントアドバイス-. 旭川小児科医会学術講演会、2007
2. 佐々木聡: Clinical Case-Oriented 小児の腎・電解質のポイント-小児の低ナトリウム血症を中心に-. 第 3 回道南レジデントセミナー、七飯町大沼、2007
3. 佐々木聡: ネフローゼ症候群 -基礎と臨床をつなぐ考え方-. 函館小児科医会学術講演会、函館、2007
4. 佐々木聡: ネフローゼ症候群 -基礎と臨床をつなぐ考え方-. 十勝小児科医会学術講演会、帯広、2007

学会活動（委員会委員など）

日本小児腎臓病学会評議員・学術委員

小児難治性腎疾患治療研究会北海道地区世話人

北海道小児腎臓病研究会幹事（佐々木聡、中島泰志）

北海道臨床腎臓研究会幹事（佐々木聡）

北海道腎フォーラム幹事（佐々木聡）

内分泌グループ

所属メンバー

・田島　敏広　（講師、昭和 61 年卒）
・椿　　淳子　（医員、平成 4 年卒）
・石津　　桂　（大学院生、平成 10 年卒）
・城　和歌子　（大学院生、平成 11 年卒）
・藤原ふみえ　（大学院生、平成 11 年卒）（平成 19 年 8 月より産休）
・村下　眞理　（昭和 62 年卒）

外来患者数

2,892 人/年

入院患者数

36 人/年

その他の特色ある診療内容

・成長ホルモン治療
・成人成長ホルモン治療
・ターナー女性の治療
・骨形成不全治療

研究内容

成長のメカニズムの解明、先天性副腎疾患の病態解明

競合的外部資金

・成長科学協会研究費
・森永奉仕会研究費

論文・著書など

1. Tajima T, Fujiwara F, Sudo A, Saito S and Fujieda K: Japanese patient of congenital hypothyroidism with cerebellar atrophy. Endocr J 54: 941-944, 2007
2. Adachi M, Asakura Y, Sato Y, Tajima T, Nakajima T, Yamamoto T and Fujieda K: Novel SLC12A1 (NKCC2) mutations in two families with Bartter syndrome type 1. Endocr J 54: 1003-1007, 2007
3. 田島敏広、藤枝憲二: 萎縮性甲状腺炎. 小児科臨床 60: 161-168, 2007
4. 田島敏広: 最近みかけるビタミン D 欠乏性くる病. 骨粗鬆症治療 6: 32-36, 2007
5. Tajima T, Tsubaki J, Ishizu K, Jo W, Ishi N and Fujieda K: Case Study of a 15-Year-old Boy with McCune-Albright Syndrome Combined with Pituitary Gigantism: Effect of Octreotide-long Acting Release (LAR) and Cabergoline Therapy. Endocr J 55(3): 595-599, 2008

6. Okuhara K, Abe S, Kondo T, Fujita K, Koda N, Mochizuki H, Fujieda K and Tajima T: Four Japanese patients with adrenal hypoplasia congenita and hypogonadotropic hypogonadism caused by DAX-1 gene mutations: mutant DAX-1 failed to repress steroidogenic acute regulatory protein (StAR) and luteinizing hormone beta-subunit gene promoter activity. Endocr J 55: 97-103, 2008
7. Tamada Y, Kanda S, Suzuki H, Tajima T and Nishiyama T: A pseudohypoparathyroidism type Ia patient with normocalcemia. Endocr J 55:169-173, 2008
8. Sawamura Y, Kamada K, Kamoshima Y, Yamaguchi S, Tajima T, Tsubaki J, Fujimaki T: Role of Surgery for Optic pathway / Hypothalamic Astrocytomas in Children. Neuro-Oncology (in press)

循環器グループ

所属メンバー

・村上　智明　（助教、平成元年卒）
・上野　倫彦　（医員、平成 3 年卒）
・武田　充人　（医員、平成 5 年卒）
・八鍬　　聡　（医員、平成 6 年卒）
・古川　卓朗　（大学院生、平成 12 年卒）

1.大学での仕事

1.1 病棟

入院数　のべ 221 人（2006 年　のべ 203 人）
　入院日数　7.7±10.6 日（平均±SD）　中央値 5 日
　(2006 年　8.2±7.0 日　中央値 6 日）

内　訳　心臓カテーテルのための入院　137 例　（2006 年　122 例）
　術前の入院　28 例　（2006 年　28 例）
　術後管理のための入院　31 例　（2006 年　33 例）
　原病の管理（心不全、不整脈など）12 例　（2006 年　9 例）
　その他（心疾患患者の上気道炎、胃腸炎など）13 例　（2006 年　11 例）

心臓カテーテル検査 150 件　（2006 年　135 件）
うち intervention 25 件(16.7%)　（2006 年　13 件-9.6%）
　バルーン拡大術　肺動脈弁狭窄　4 件
　　大動脈縮窄再狭窄　4 件
　　末梢性肺動脈狭窄　6 件
　コイル留置術　動脈管開存コイル閉鎖　3 件
　　Fontan 手術前の体-肺動脈側副血行路コイル閉鎖術　4 件
　　Fontan 手術後の静脈-静脈側副血行路コイル閉鎖術　2 件
　その他　心房中隔裂開術　2 件

入院患児のエコー検査
　video 記録された full study 290 件　（2006 年　291 件）

1.2 外来

月（武田）、水（村上）、木（上野）の週３回
外来受診者数　のべ　約 2080 名／年

外来検査
　外来エコー検査　663 件　（2006 年　703 件）
　ホルター心電図　160 件　（2006 年　153 件）
　運動負荷心電図（トレッドミル）　5 件　（2006 年　15 件）

2.関連病院心外来など

週 1 回

札幌市立病院（武田）

月 2 回

KKR 札幌病院（八鍬）、天使病院（村上）、千歳市立病院（武田、八鍬）、

釧路日赤病院（4 月から月 2 回−村上、八鍬）

月 1 回

帯広厚生病院（上野）、美唄市立病院（上野）、美唄労災病院（上野）、

日鋼記念病院（村上）、札幌厚生病院（上野）、中標津町立病院（武田）、

倶知安厚生病院（上野）、苫小牧王子病院（村上）、

天使病院−成人先天性心疾患外来（村上）、

根室市立病院（4 月から月 1 回−八鍬）、

隔月

国立札幌病院（4 月から隔月−武田）

その他

三笠市立病院（年 1 回−村上）

学校心電図など

札幌市（村上、上野）、江別市（上野）、石狩市（村上）、千歳市（八鍬）、

北海道医師会（村上）

論文・著書など

1. Haruna Y, Kobori A, Makiyama T, Yoshida H, Akao M, Doi T, Tsuji K, Ono S, Nishio Y, Shimizu W, Inoue T, Murakami T, Tsuboi N, Yamanouchi H, Ushinohama H, Nakamura Y, Yoshinaga M, Horigome H, Aizawa Y, Kita T and Horie M: Genotype-phenotype correlations of KCNJ2 mutations in Japanese patients with Andersen-Tawil syndrome.
Hum Mutat 28: 208, 2007
2. Murakami T, Ueno M, Takeda A and Yakuwa S: Pressure wave reflection after successful balloon dilatation of aortic coarctation. Circ J 71: 1821-1822, 2007
3. 盛一享徳、仲西正憲、村上智明: パルボウイルス心筋炎による心不全に対するβ遮断薬の効果. 日本小児科学会雑誌 111: 765-769, 2007
4. 村上智明: 血管拡張薬(降圧薬)−血圧を下げる・心血管を守る−. 小児科臨床 60: 2443-2447, 2007

学会発表

1. 坂崎尚徳、中澤　誠、丹羽公一郎、村上智明、高室基樹、宮本朋幸、松島正気、松村正彦、越後茂之、福嶌教偉、馬場　清、赤木禎治、小山耕太郎、城尾邦隆、姫野和家子: Eisenmenger 症候群の臨床的検討・多施設共同研究 database から. 第 9 回日本成人先天性心疾患研究会、東京市、2007/1/13
2. 上野倫彦、武井黄太、八鍬　聡、武田充人、村上智明: 動脈管開存を合併した先天性僧帽弁閉鎖不全症例　体肺小短絡が血行動態に与える影響について. 第 18 回日本 Pediatric Interventional Cardiology 研究会、福岡、2007/1/20
3. 村上智明、武井黄太、上野倫彦、武田充人、八鍬　聡: 大血管スイッチ手術後大動脈リザーバー機能. 第 48 回北海道小児循環器研究会、札幌市、2007/4/7
4. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬　聡、武井黄太: 小児における橈骨動脈圧波形解析. 第 7 回臨床血圧脈波研究会、大阪、2007/6/2
5. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬　聡、武井黄太: 川崎病罹患後の巨大冠動脈瘤は血行動態的狭窄である. 第 43 回日本小児循環器学会総会・学術集会、東京都、2007/7/4
6. 武井黄太、村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬　聡、村下十志文: Fallot 四徴症術後症例の大動脈は拡大し、その拡張性は低下している. 第 43 回日本小児循環器学会総会・学術集会、東京都、2007/7/4
7. 森　善樹、中西敏雄、中澤　誠、日沼千尋、村上智明、檜垣高史、鮎澤純子、八木原俊克: 小児期心疾患侵襲的治療、検査の安全性確保におけるシステムの役割−心カテ検査、治療のインフォームドコンセント用紙の評価−. 第 43 回日本小児循環器学会総会・学術集会　パネルディスカッション、東京都、2007/7/5
8. 中川雅生、佐地　勉、松裏裕行、三谷義英、村上智明、安田東始哲: 小児循環器疾患治療薬の適応外使用問題解決に向けた取り組み−小児薬物療法根拠情報収集事業での酢酸フレカイニドの選択−. 第 43 回日本小児循環器学会総会・学術集会、東京都、2007/7/6
9. 村上智明、武井黄太、上野倫彦、武田充人、八鍬　聡、中澤　誠: 修学時期の大血管スイッチ手術後患児において心内膜下還流は大動脈拡張期血流量に大きく依存する. 第 55 回日本心臓病学会学術集会、千葉、2007/9/10
10. 上野倫彦、古川卓朗、八鍬　聡、武田充人、村上智明、橘　剛、村下十志文: 当院における機能的単心室例の経過についての検討. 第 59 回北日本小児科学会、弘前 2007/9/15
11. 村上智明、上野倫彦、武田充人、八鍬　聡、武井黄太: 小児における橈骨動脈圧波形解析. 第 27 回小児循環動態研究会、大阪、2007/10/20
12. 上野倫彦、古川卓朗、八鍬　聡、武田充人、村上智明、橘　剛、村下十志文: 最近の当院における機能的単心室例の経過と中期遠隔成績について. 第 49 回北海道小児循環器研究会、札幌市、2007/11/10

講演

1. 上野倫彦: 肺高血圧に対する新しい治療薬　最近の知見. 十勝小児科医会、帯広市、2007/2/19
2. 村上智明: 冠循環の知識　拡張性病変(川崎病). 第 2 回 FFR ワークショップ、箱根、2007/2/24
3. 村上智明: 小児心不全治療解説. 第 7 回北海道発達循環フォーラム、札幌市、2007/10/6

新生児グループ

所属メンバー

・長　　和俊　（准教授、昭和 60 年卒）
・水島　正人　（助教、平成 4 年卒）
・里見　達郎　（助教、平成 11 年卒）
・小西　祥平　（医員、平成 11 年卒）
・加賀(渡辺)　麻衣子　（医員、平成 12 年卒）（〜平成 19 年 9 月）

外来患者数

小児科新生児外来　　　547 人/年
産科外来（1 ヶ月健診）　302 人/年

体重区分別新生児数

体重区分	新生児数	死亡数
〜1,000g	6	1
1,000〜1,500g	7	2
1,500〜2,000g	11	0
2,000〜2,500g	55	0
2,500〜4,000g	186	0
4,000g〜	2	0
計	267	3

多胎症例数

双胎　16 組　　32 例
品胎　1 組 3 例

研究内容

・ 新生児慢性肺疾患の病態解析
・ 低出生体重児への環境ホルモン暴露評価
・ 先天性肺胞蛋白症の病因解析

競合的外部資金

・科学研究費補助金　基盤 C　「ラットを用いたコルチコステロイド投与が新生児慢性肺疾患に及ぼす影響の解明」1,000 千円

論文・著書など

1. 小西祥平、渡辺麻衣子、金田　真、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣: 頸部リンパ節腫大に環軸椎回旋位固定を合併した 3 例. 日本小児科学会雑誌 111（9）：1191−1195，2007

2. 長　和俊: 新生児の皮疹. 小児科診療 70 巻増刊【症候からみた小児の診断学】: 185-188, 2007
3. 長　和俊: 呼吸の評価. 周産期医学 37(1)【新生児の基本管理マニュアル】: 35-38, 2007
4. 長　和俊: 出生時の臍帯血採取. Neonatal Care2007 春季増刊【新生児医療と看護の臨床手技 70】：54-59, 2007
5. 長　和俊: 新生児室での管理 ルーチンケア. 臨床婦人科産科 62(2)【新生児の蘇生と管理】：151-154, 2007
6. 長　和俊: 喘鳴. 周産期医学 37 巻増刊【周産期の症候・診断・治療ナビ】：385-388, 2007
7. 長　和俊: 新生児の皮疹. 小児科診療 70 巻増刊【症候からみた小児の診断学】: 185-188, 2007
8. 森川　守、 山田　俊、 長　和俊、 山田秀人、 水上尚典: 胎児水腫. 産科と婦人科 74 巻【産婦人科　新画像診断　外来・病棟で役立つ画像判読のポイント】：114-120, 2007

学会発表

1. 水島正人: 鼻低形成による呼吸障害を呈した先端異骨症の一例. 第 52 回日本未熟児新生児学会、高松、2007/11/24-26
2. 小西祥平: 新生児に対するフタル酸エステルの暴露に関する検討. 第 43 回日本周産期・新生児医学会、宮崎、2007/7/9-11
3. 渡辺麻衣子: SLE 母体から出生した Junctional Ectopic Tachycardia (JET)の 1 例. 第 20 回北海道新生児談話会、札幌、2007/8/26
4. 長　和俊: 第 5 回北海道周産期談話会、札幌、2007/8

学会活動

・周産期・新生児医学会: 評議員、周産期シンポジウム幹事（長）
・日本未熟児新生児学会: 評議員、医療機材安全性確認委員会委員、輸血問題小委員会委員（長）
・日本産婦人科・新生児医学会: 評議員（長）
・日本新生児医療連絡会: 役員（長）
・日本臨床モニター学会: 評議員（長）
・日本肺サーファクタント・界面医学会: 評議員（長）

感染グループ

所属メンバー

・石黒　信久　（助教、北大病院感染制御部、昭和 59 年卒）
・遠藤　理香　（平成 8 年卒）（～平成 19 年 10 月　小児科医員、
平成 19 年 11 月～　病原微生物学分野　助教）
・寺本　　忍　（大学院 1 年、平成 13 年卒）

・シロクヒ　レザ　（平成 20 年 3 月まで COE 博士研究員、平成 20 年 4 月よりテヘラン大学、イラン・テヘラン大学 1995 年卒）

外来患者数　　60 人　　（HBV, HCV キャリアーのフォローが中心）

その他の特色ある診療内容

石黒は北大病院の感染制御部副部長として院内感染対策の業務に当たると同時に、各診療科からの感染症の診断と治療の相談を引き受けている．

研究内容

・ヒトメタニューモウイルスの臨床的・基礎的研究
・ヒトボカウイルスの臨床的・基礎的研究
・ポリオーマウイルスの臨床的・基礎的研究

競合的外部資金

・科学研究費補助金　基盤研究（C）「ヒト・メタニューモウイルス表面膜蛋白（F、G、SH）の機能解析と臨床への応用」（研究代表者：石黒信久）
・科学研究費補助金　若手スタートアップ 「新しく発見された呼吸器感染ウイルス（ヒト・ボカウイルス）に関する臨床的研究」（研究代表者：遠藤理香）

論文・著書など

1. Endo R, Ishiguro N, Kikuta H, Teramoto S, Shirkoohi R, Ma X, Ebihara T, Ishiko H and Ariga T: Seroepidemiology of human bocavirus in Hokkaido prefecture, Japan. J Clin Microbiol 45: 3218-3223, 2007
2. Kikuta H, Ebihara T, Endo R, Ishiguro N, Sakata C, Ochiai S, Ishiko H, Gamo R and Sato T: Development of a rapid chromatographic immunoassay for detection of human metapneumovirus using monoclonal antibodies against nucleoprotein of hMPV. Hybridoma (Larchmt) 26: 17-21, 2007
3. Yoshioka M, M.M. Crum and J.T.Sample: Autorepression of Epstein-Barr virus nuclear antigen 1 expression by inhibition of pre-mRNA processing. J Virol 82: 1679-1687, 2008

学会発表

1. 遠藤理香: 日本におけるヒトボカウイルス(Human Bocavirus)感染症の臨床像と血清抗体保有率についての研究. 110 回日本小児科学会学術集会、京都、2007/4/20-22
2. 遠藤理香: 新しく発見された呼吸器ウイルス（ヒトボカウイルス）感染症における臨床像、抗体反応、血中ウイルスゲノムの検出. 第 55 回日本ウイルス学会学術集会、札幌、2007/10/21-23
3. 石黒信久: ヒトボカウイルス(HBoV)感染症における血清中のウイルスゲノムの検出と抗 HBoV-IgG 抗体価の推移. 第 39 回日本小児感染症学会総会、横浜、2007/11/9-11
4. 遠藤理香: ヒトメタニューモウイルスの 4 つのサブグループに特異的な血清抗 G 蛋白抗体の測定. 第 39 回日本小児感染症学会総会、横浜、2007/11/9-11

講演

1. 遠藤理香: 話題のウイルス：新たな呼吸器ウイルス　ヒトボカウイルス. 第 41 回日本ウイルス学会北海道支部会夏期シンポジウム、2007/8/24-25

社会貢献

・札幌感染管理研究会　代表幹事（石黒）
・国立大学附属病院感染対策協議会　教育作業部会（ICD)メンバー　（石黒）

遺伝グループ

所属メンバー

・外木　秀文　（昭和 57 年卒）
・佐藤　大介　（平成 10 年卒）
・中本　　哲　（平成 11 年卒）

外来患者数　55　人/年

入院患者数　0　人/年

その他の特色ある診療内容

・原因不明の先天奇形症候群の診断ならびに原因検索

研究内容

・Down 症候群の責任遺伝子の同定
・Axenfeldt-Rieger 症候群の遺伝的異質性の解明

論文・著書など

1. Saitoh S, Hosoki K, Takano K and Tonoki H: Mosaic paternally derived inv dup(15) may partially rescue the Prader-Willi syndrome phenotype with uniparental disomy. Clin Genet 72: 378-80, 2007
2. Sato D, Kawara H, Shimokawa O, Harada N, Tonoki H, Takahashi N, Imai Y, Kimura H, Matsumot N, Ariga T, Niikawa N and Yoshiura K: A Down syndrome girl with partial trisomy for 21 pter-q22.13: A clue to narrow the Down syndrome critical region. Am J Med Genet A 146: 124-127, 2008

学会発表

1. 外木秀文 他: Axenfeld-Rieger 奇形と Axenfeld-Rieger 症候群 : 6p25 の構造異常を持つ２症例の検討. 第 52 回日本人類遺伝学会、東京都、2007/9/14-15
2. 佐藤大介、高橋伸浩、外木秀文 他: アレイ CGH による詳細なゲノム解析が有用であったダウン症候群女児の１例. 第 10 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2007/11/10
3. 宮　卓也、砂田　哲、小旗菜穂、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣 他: 兄弟で発症した裂手裂足異常症. 第 10 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2007/11/10
4. 外木秀文 他: Axenfeld-Rieger 症候群の遺伝学的な分類を試みるための研究 第一報. 第 32 回札幌市医師会医学会、札幌市、2008/2/17

講演

1. 外木秀文: 染色体検査法の進歩. 千歳・恵庭小児科医会講演会、千歳市、2008/2/8

学会活動（委員会委員など）

1. 外木秀文: 日本人類遺伝学会評議員、北海道出生前診断研究会世話人

代謝消化器病グループ

所属メンバー

・窪田　　満　（非常勤講師、昭和 61 年卒）
・竹田　優子　（大学院生、平成 8 年卒）
・木田　和宏　（大学院生、平成 10 年卒）

外来患者数　1633 人/年　（北大外来 364 人、手稲渓仁会代謝外来 1269 人）

入院患者数　54 人/年　（北大小児科 5 人、手稲渓仁会病院 49 人）

その他の特色ある診療内容

【先天代謝異常症】

リソソーム病（ムコ多糖症、Fabry 病 Tay-Sachs 病）のスクリーニングと診断と治療
メンケス病および Occipital horn 症候群の治療
尿素サイクル異常症（OTCD、古典的シトルリン血症）の治療
有機酸代謝異常症（メチルマロン酸血症、プロピオン酸血症）のスクリーニングと治療
脂肪酸代謝異常症（グルタル酸尿症Ⅱ型、CPTⅡ欠損症）のスクリーニングと診断と治療
NICCD（neonatal intrahepatic cholestasis caused by citrin deficiency）の診断と治療指針の作成
フェニルケトン尿症、糖原病の治療

【肝臓疾患】

先天性肝内胆汁うっ滞（アラジール症候群、バイラー病）の治療
血管奇形による門脈血流低下の画像診断と治療
脂肪肝（特に境界型糖尿病に併発するもの）の治療

【消化管疾患】

炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）の治療[白血球除去療法を含む]
難治性下痢症、遷延性下痢症の治療とコンサルテーション
過敏性腸症候群、習慣性便秘症、周期性嘔吐症の診断と治療

研究内容

先天代謝異常症の診断と治療

・タンデムマスを用いた新生児ムコ多糖症マススクリーニング（木田 和宏）
・アミノ酸、有機酸代謝異常症へのタンデムマススクリーニングパイロットスタディ
・酵素補充療法の研究（ムコ多糖症、Fabry病など）
・尿素サイクル異常症の院内製剤による治療、超希少疾患治療薬の認可システムの研究

・銅代謝異常症（ウィルソン氏病、メンケス病）の早期診断、早期治療
　消化器肝臓疾患の診断と治療、研究
・過敏性腸症候群のメカニズムに関する研究
　— セロトニンと免疫担当細胞のインターアクション —（竹田 優子）
・難治性下痢症、嘔吐症とアレルギー性胃腸症に関する病理組織学的研究
・先天性肝内胆汁うっ滞（アラジール症候群、バイラー病）の治療と脂肪肝に関する研究

競合的外部資金

・先天代謝異常症の診断ネットワークを介した長期予後追跡システムの構築（松原班）（研究協力者；窪田 満）
・小児超希少疾患治療薬の開発（遠藤班）（研究協力者；窪田 満）
・タンデムマスなどの新技術を導入した新しい新生児マススクリーニング体制の確立に関する研究（山口班）（研究協力者；窪田 満）

論文・著書など

1. 窪田　満、竹田優子、木田和宏: タンデム質量分析計による新生児マス・スクリーニングで発見されたプロピオン酸血症. 特殊ミルク情報 43: 32-35, 2007

学会発表

1. 窪田　満: ピボキシル型抗生物質が関与した低血糖、高アンモニア血症によるけいれん、意識障害の 1 例 -タンデム質量分析計によるアシルカルニチン分析の有用性-. 第 6 回東北代謝異常症治療研究会、仙台、2007/7/13
2. 木田和宏、竹田優子、窪田　満、斉藤伸治: 長期管理を行っている Menkes 病の一例. 第 59 回北日本小児科学会、弘前、2007/9/15
3. 窪田　満、竹田優子、木田和宏、長尾雅悦: 糖新生障害としての NICCD ー肝機能障害改善後の低血糖とアシドーシスー. 第 34 回日本小児栄養消化器肝臓学会、仙台、2007/10/6-7（優秀演題受賞）
4. 竹田優子、木田和宏、窪田　満: 生体部分肝移植後の NASH に胆汁外瘻造設が有効であった PFIC-I の 1 例. 第 34 回日本小児栄養消化器肝臓学会、仙台、2007/10/6-7
5. 窪田　満、戸田壮一郎: ファブリー病に対して早期に酵素補充療法を開始した 4 才男児例. 第 49 回日本先天代謝異常学会、山形、2007/11/15-18
6. 木田和宏、竹田優子、窪田　満: 出生前診断を行い、日齢 2 から非経口的銅補充療法を開始した Menkes 病の症例. 第 49 回日本先天代謝異常学会、山形、2007/11/15-18
7. 竹田優子、木田和宏、岡田忠雄、佐々木文章、窪田　満: 腹腔鏡補助下全結腸切除術を施行した小児潰瘍性大腸炎の 2 例 –手術適応に関する考察-. 第 8 回日本小児 IBD 研究会、東京、2008/2/17

講演

1. 窪田　満: 症例検討. 第 3 回日本先天代謝異常学会セミナー（講師)、東京、2007/8/4-5
2. 窪田　満: 日常診療における先天性代謝異常症. 札幌市小児科医会 9 月例会、札幌、2007/9/25

学会活動（委員会委員など）

・日本ムコ多糖症研究会(幹事)　窪田　満
・日本小児 H.pylori 研究会(世話人)　窪田　満
・日本小児消化器感染症研究会（世話人）　窪田　満
・日本小児肝臓研究会（運営委員）　窪田　満
・日本小児 IBD 研究会（幹事）　窪田　満
・東北代謝異常症治療研究会(世話人)　窪田　満
・北海道消化管運動研究会（世話人、今年度は当番世話人）　窪田　満
・北海道先天代謝異常症治療研究会（世話人；事務局）　窪田　満
・北海道小児消化器病フォーラム（世話人；事務局）　窪田　満
・札幌市小児科医会（幹事）　窪田　満
・札幌市乳幼児園医協議会（幹事）　窪田　満

社会貢献

・北海道および札幌市より先天代謝異常等検査業務相談医を委嘱　窪田　満
・市民向け育児講座、健康相談の講師を年 4 回程度　窪田　満

市立札幌病院

所属メンバー

小児科

・福島　直樹　（部長、昭和 46 年卒）
・須藤　　章　（副医長、平成 3 年卒）
・佐野　仁美　（副医長、平成 3 年卒）
・伊藤　智城　（平成 14 年卒）
・森岡　圭太　（平成 17 年卒）

新生児科

・服部　　司　（部長、昭和 49 年卒）
・中島　健夫　（副部長、昭和 53 年卒）
・内田　雅也　（副医長、平成 5 年卒）
・野呂　　歩　（平成 8 年卒）
・山崎　康博　（平成 16 年卒）

卒後臨床研修医

月 1-2 名

専門外来

・心臓外来（×1/週）

病院全体の医師数	189 人	
小児科医師数	5+5+1 人	（うち非常勤　1 人）
病院全体の病床数	810 床	（静療院を除く）
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	45 床	
NICU 病床数	9 床	
新生児病床数(NICU を除く)	32 床	
NICU としての認定	あり	
平均小児科外来数	100 人/日	
平均時間外外来数	3~5 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	1,018 人/年	
年間のべ入院患者数	7,546 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	300 人/年	
年間分娩数	600 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	200 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	60 人/年	
年間呼吸管理患者数	80 人/年	

論文・著書など

1. 日本糖尿病学会編（共著）：小児・思春期糖尿病のてびき. 改訂版第 2 版 南江堂, 2007
2. 福島直樹、中島　翠、杉山未奈子、古川卓朗、須藤　章、南雲　淳: 小児における超速効型インスリンアナログ混合製剤の使用経験. 糖尿病 50: 188, 2007
3. 古川卓朗、須藤　章、福島直樹、富樫武弘、宮崎知保子: MRI 強調画像にて皮質下白質病変を呈したインフルエンザウイルスによる二相型脳症の 2 歳女児例. 小児科臨床 60: 1819-1826, 2007
4. 楠堂晋一、須藤　章、古川卓朗、藤原ふみえ、福島直樹、吉村　理、山川宗位、滝上真良、宮崎知保子: 耳性頭蓋内合併症（小脳膿瘍）の 1 例. 市立札幌病院医誌 67: 77-82, 2007
5. Sano H, Ishino M, Kramer H, Shimizu T, Mitsuzawa H, Nishitani C and Kuroki Y: The microtubule-binding protein Hook3 interacts with a cytoplasmic domain of scavenger A. J Biol Chem 282: 7973-7981, 2007
6. Shiraishi H, Takano K, Okajima M, Sudo A, Asahina N, Kohsaka S, Fukuhara M and Saito S: Possible involvement of the tip of temporal lobe in Landau-Kleffner syndrome. Brain Dev 29: 529-533, 2007

学会発表

全国学会

1. 山崎康博、峰岸克行、山田雅文、川村信明、有賀　正: STAT3 遺伝子異常を同定した高 IgE 症候群の 1 例. 食細胞研究会、東京、2007/12/15

地方学会、研究会、講演など

1. 須藤　章、古川卓朗、南雲　淳、福島直樹、斉藤伸治、白石秀明、朝比奈直子、末田慶太朗. 3 ヶ月時よりてんかん発作を繰り返す､精神運動発達遅滞を示す 5 歳男児例. 第 7 回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2007/1/20
2. 中島　翠、須藤　章、森岡圭太、宮崎裕子、杉山未奈子、古川卓朗、南雲　淳、福島直樹: 当院で経験したアデノウイルス感染症（咽頭結膜炎）の臨床経過－特に抗生剤使用の有無による比較. 日本小児科学会北海道地方会第 268 回例会、札幌市、2007/2/25
3. 境　信哉、真木　誠、境　直子、中村眞理子、須藤　章、斉藤伸治: 脊髄性筋萎縮症(1 型)に対する系統的スイッチ活動の経過. 第 9 回日本小児神経学会北海道地方会 2007/3/10
4. 福島直樹: 治療に難渋している 2 型糖尿病について. 第 9 回北海道小児糖尿病研究会、札幌市、2007/6/9

5. 福島直樹: ペン型インスリン注射器の空気混入について. 第 9 回北海道小児糖尿病研究会、札幌市、2007/6/9
6. 森岡圭太、須藤　章、伊藤智城、佐野仁美、福島直樹: 解熱後も CRP 陽性が遷延した硬膜下水腫合併細菌性髄膜炎 2 例の検討. 日本小児科学会北海道地方会第 269 回例会、旭川市、2007/7/1
7. 佐野仁美、佐藤史幸、森岡圭太、山崎康博、伊藤智城、須藤　章、福島直樹: 甲状腺クリーゼを発症した小児バセドウ病の 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 270 回例会、札幌市、2007/11/25

その他社会貢献など

・糖尿病サマーキャンプ協力

札幌厚生病院

所属メンバー

・今野武津子　（昭和 47 年卒）
・高橋美智子　（昭和 58 年卒）
・佐藤　孝平　（平成 3 年卒）
・戸板　成昭　（平成 8 年卒）

卒後臨床研修医

25 名

専門外来

・内分泌外来（藤枝憲二 ×1/月）
・腎臓外来（佐々木聡 ×1/月）
・神経外来（斉藤伸治 ×1/2 月）
・心臓外来（上野倫彦 ×1/2 月）

病院全体の医師数	112 人	
小児科医師数	4 人	（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	494 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	24 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	7 床

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	57 人/日	
平均時間外外来数	1 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,072 人/年	
年間のべ入院患者数	8,223 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	225 人/年	

年間分娩数	155 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	12 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	1 人/年

論文・著書など

1. 今野武津子: 特集 Helicobacter pylori 感染症—胃外疾患(特発性血小板減少性紫斑病、鉄欠乏性貧血）との関連. 小児内科 39: 468-473, 2007
2. 佐藤孝平、今野武津子: 特集　診断に苦慮する長引く発熱疾患「クローン病」. 小児内科 39: 2052-2055, 2007
3. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平: 炎症性腸疾患患児の follow-up における便中カルプロテクチン測定の有用性. 札医通信増刊 247: 145-146, 2007
4. Yokota S, Konno M, Mino E, Sato K, Takahashi M and Fujii N: Enhanced Fe ion-uptake activity in Helicobacter pylori strains isolated from patients with iron-deficiency anemia. Clin Infect Dis 46: e31-e33, 2008
5. Kikuta H, Sakurai C, Gamo R, Ishizaka A, Koga Y, Konno M, et al: Comparison of a lateral-flow immmunochromatography assay with real-time reverse transcription-PCR for detection of human metapneumovirus. J Clin Microbiol 46: 928-932, 2008

学会発表

全国学会

1. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平、戸板成昭 ほか: 潰瘍性大腸炎患児の follow-up における便中カルプロテクチン測定の有用性. 第 34 回日本小児栄養消化器肝臓学会、仙台市、2007/10（学会優秀賞受賞演題)
2. 今野武津子、国島伸治、森谷玲子、高橋美智子、佐々木聡: MYH9 遺伝子異常を認め、顆粒球と近位尿細管上皮の細胞質に NMMHCA 斑状集積を認めた Ebstein 症候群の 1 例. 第 49 回日本小児血液学会、仙台市、2007/12
3. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、小林一郎 ほか: B-cell lymphoma を合併した DNA Ligase IV syndrome の一例. 第 110 回日本小児科学会、京都市、2007/4
4. 戸板成昭、波多野典一、山田雅文、川村信明、有賀　正: 腫瘍内 IL-6 発現増強を確認しえた小児 Castleman 病の 1 例. 第 35 回日本臨床免疫学会、大阪市、2007/10
5. 今野武津子、高橋美智子、佐藤孝平、戸板成昭: 小児難治性潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法の有用性に対する検討. 第 8 回日本小児 IBD 研究会、東京都、2008/2

地方学会、研究会、講演など

1. 佐藤孝平、今野武津子、高橋美智子、戸板成昭: 小児難治性潰瘍性大腸炎に対する白血球除去療法の有用性に関する検討. 第 33 回札幌市医師会医学会、札幌市、2008/2
2. 戸板成昭、佐藤孝平、高橋美智子、今野武津子: 当院における症候性 Meckel 憩室 3 例の検討. 日本小児科学会北海道地方会第 270 回例会、札幌市、2007/11

3. 佐藤孝平、戸板成昭、高橋美智子、今野武津子: サイトメガロウイルス(CMV)感染が症状の増悪に関与した潰瘍性大腸炎の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 271 回例会、札幌市、2008/2
4. 今野武津子 ほか: シンポジウム「クローン病の未来を考える」. いきいきライフ講演会、札幌市、2007/7

その他社会貢献など

1. 今野武津子: 新米ママの育児講座. 札幌市、2007/11

ＫＫＲ札幌医療センター

所属メンバー

・高橋　　豊　（副院長兼小児センター長、昭和 50 年卒）
・鹿野　高明　（小児科部長、昭和 52 年卒）
・盛一　享徳　（小児科医長、平成 11 年卒）
・縄手　　満　（小児科医長、平成 10 年卒）
・佐藤　泰征　（小児科医員、平成 16 年卒）

卒後臨床研修医

7 人（病院全体）

専門外来

・神経外来（朝比奈直子 ×2/月）
・心臓外来（八鍬　聡 ×2/月）
・喘息アレルギー外来（高橋）
・内分泌外来（高橋）
・血液外来（鹿野）
・心身症外来（縄手）

病院全体の医師数	75 人	（うち研修医　7 人）
小児科医師数	5 人	（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	450 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	34 床
NICU 病床数	2 床
新生児病床数(NICU を除く)	床

NICU としての認定　　　なし

平均小児科外来数	86.5 人/日	
平均時間外外来数	2.4 人/日	（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	2,362 人/年	（うち新生児　368 人）
年間のべ入院患者数	14,917 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	850 人/年	（新生児入院除く）

年間分娩数	520 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	54 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	5 人/年	
年間呼吸管理患者数	4 人/年	（新生児）

論文、著書など

1. 高橋　豊、渡辺　徹、森　俊彦、宇加江進、我妻義則、平野至規、有賀　正、堤　裕幸、崎山幸雄: 北海道の小児喘息患者とその保護者の QOL に関する 2004 年アンケート調査-2001 年の調査結果との比較-. 喘息 20: 77-84, 2007
2. 鹿野高明、高橋　豊、戸板成昭、岡野素彦: Rifampicin による著明な血小板減少症をきたした慢性肉芽腫症の 1 例. 小児科臨床 60: 447-451, 2007
3. 鹿野高明、高橋　豊、中野育子、穴倉廸彌: ビタミン K 欠乏により易出血傾向を示した 3 例. 小児科臨床 60: 963-967, 2007
4. 鹿野高明、高橋　豊、長谷龍之介、森川利昭: 漏斗胸を合併した Congenital Cystic Adenomatoid Malformation of the Lung(CCAM)の 3 歳女児例. 臨床小児医学 55: 25-28, 2007
5. 鹿野高明、高橋　豊、穴倉廸彌: 小児の亜急性壊死性リンパ節炎. 小児科臨床 60(10): 1979-1984, 2007
6. 縄手　満、市川瑞穂、鴨志田久子、鹿野高明、高橋　豊、石川順一、田島敏広: CLCNKB 変異による Bartter 症候群の 1 例. 日本小児科学会雑誌 111: 677-681, 2007
7. 近藤富雄、清沢伸幸、大山昇一、高橋　豊、大竹正俊、豊田　茂、岡崎富雄、浜本邦洋、福重淳一郎、小田島安平、賀藤　均、木野　稔、寺井　勝、富樫武弘、松井猛彦、松平隆光、安田　正、麦島秀雄、山野恒一: 病院小児科医による 365 日 24 時間体制の当直に関する報告書. 日本小児科学会雑誌 111, 2007
8. 高橋　豊、佐藤泰征、縄手　満、盛一享徳、鹿野高明、沢田博行、遠藤理香、石黒信久: 小児喘鳴性疾患における human Metapneumovirus の関与についての検討. 札幌市医師会医学雑誌 32: 219-220, 2007
9. 伊東広臨、松波由貴子、縄手　満、鹿野高明、高橋　豊、下嶋秀和、南崎哲史: 完全房室ブロックから心停止を来たしたが、後遺症なく回復し得たウイルス性心筋炎の一例. KKR 札幌医療センター医学雑誌 4: 61-63, 2007
10. 鹿野高明、高橋　豊、藤原ふみえ、川村脩子: 過った食習慣と軽度ストレスが関与した幼児一過性高血糖の 2 例. 臨床小児医学 55: 90-92, 2007
11. 鹿野高明、松波由貴子、伊東広臨、縄手　満、高橋　豊: クループ症候群における Dexamethasone 単回静注後の rebound 発熱. 小児科臨床 60(11): 2127-2130, 2007
12. 鹿野高明、松波由貴子、伊東広臨、縄手　満、高橋　豊: クループ症候群入院例の臨床的検討. 臨床小児医学 55: 133-136, 2007
13. 鹿野高明、高橋　豊、鈴木　信、若井周治: 目で見る小児科　ロタウイルス胃腸炎に伴った腎結石陥頓による急性腎不全. 小児科 48: 1773-1774, 2007
14. 月永一郎、深澤雄一郎、鹿野高明、安田秀美(安田皮膚科)、小林良二（北大小児科）：小児の四肢に出現した紅斑　白血病の特異疹か. 日本皮膚病理組織学会会誌 22: 10-13, 2007
15. 鹿野高明、片岡昭彦、高橋　豊、赤坂嘉宣: 穿孔性腹膜炎を伴った学童急性胃軸捻転の 1 例. 臨床小児医 55: 67-70, 2007

16. 縄手満、Michael R, Eric T: 不安障害. 児童青年精神医学（訳書）明石書店 579- 591, 2007

学会発表

全国学会

1. 高橋　豊、佐藤泰征、縄手　満、盛一享徳、鹿野高明、沢田博行、遠藤理香、石黒信久: 小児喘鳴性疾患におけるhuman Metapneumovirusの関与についての検討(第2報). 第19回春期アレルギー学会臨床大会、東京都、2007/3/10
2. 月永一郎、深澤雄一郎、鹿野高明、安田秀美、 小林良二: 小児の四肢に出現した紅斑白血病の特異疹か?. 第22回日本皮膚病理組織学会、東京都、2007/7/22
3. 縄手　満、松波由貴子、伊東広臨、鹿野高明、高橋　豊、山越　霞、舟越隆展: 広汎性発達障害児のメタボリックシンドロームの入院治療　視覚認知を利用した治療戦略. 第56回共済医学会、名古屋、2007/10/17-18
4. 高橋　豊、佐藤泰征、縄手　満、盛一享徳、鹿野高明、沢田博行、遠藤理香、石黒信久: 小児喘鳴性疾患におけるHuman Metapneumovirusの関与についての検討（第3報）RSウイルスとの比較. 第44回日本小児アレルギー学会、名古屋、2007/12/8-9

地方学会、研究会、講演など

1. 縄手　満: 成育医療センターでの児童精神の研修. 北大小児科月曜集談会、札幌市、2007/1/22
2. 高橋　豊、松波由貴子、伊東広臨、縄手　満、鹿野高明: 小児喘鳴性疾患におけるhuman Metapneumovirusの関与についての検討－第2報. 札医医学会、札幌市、2007/2/18
3. 松波由貴子、伊藤広臨、縄手　満、鹿野高明、高橋　豊: Early prepulseless phaseで診断･治療された大動脈炎症候群の1例. 第17回北海道リウマチ性疾患研究会、札幌市、2007/2/24
4. 縄手　満: 絵によるこころの患者の評価. こどものこころ研究会、札幌市、2007/2/28
5. 松波由貴子、伊東広臨、縄手　満、鹿野高明、高橋　豊、末田慶太朗、朝比奈直子、白石秀明、香坂　忍、斉藤伸治: ポリオワクチン関連ポリオ様麻痺が疑われた1乳児例. 第10回日本小児神経学会北海道地方会、札幌市、2007/3/10
6. 縄手　満: チェックリストを用いた発達障害の診断. 第15回実践的小児神経勉強会、札幌市、2007/4/27
7. 高橋　豊: 小児喘息の診断と治療. アレルギー週間記念講演会、札幌市、2007/5/26
8. 高橋　豊、佐藤泰征、縄手　満、盛一享徳、鹿野高明: 小児喘鳴性疾患におけるヒトメタニューモウイルスの関わり. 第11回北海道アレルギー研究会、札幌市、2007/6/23
9. 高橋　豊: 小児喘息の診断と治療-特に感染との関わりについて. 石狩市医師会学術講演会、石狩市、07/10/30

10. 高橋　豊: 乳幼児喘鳴性疾患の診断と治療. 江別市小児科医会学術講演会、江別市、2007/11/8
11. 高橋　豊: 小児喘息の診断と治療. 千歳・恵庭小児科医会講演会、千歳市、2007/11/9
12. 大森啓充、長谷幸治、堀内伊作、松田博美、末光　茂、高橋　豊: RSV感染症(細気管支炎)における肺の線維化マーカーKL-6およびSP-Dの検討. 第39回日本小児感染症学会総会、横浜市、2007/11/9-11
13. 佐藤泰征、高橋　豊、縄手　満、盛一享徳、鹿野高明: 溶血性貧血の 6 歳女児例. 豊平河畔小児医療研究会、札幌市、2007/11/16

その他社会貢献など

天使病院

所属メンバー

・飯塚　　進　（昭和 51 年卒）（平成 20 年 1 月～）
・古賀　康嗣　（昭和 54 年卒）（～平成 19 年 11 月）
・外木　秀文　（昭和 57 年卒）
・高橋　伸浩　（昭和 62 年卒）
・奥原　宏治　（平成 4 年卒）
・脇口　定衛　（独自採用、後期研修医、医会員外）
・宮　　卓也　（独自採用、後期研修医、医会員外）
・砂田　　哲　（独自採用、後期研修医、医会員外）
・小簾　菜穂　（独自採用、後期研修医、医会員外）

卒後臨床研修医

９名

専門外来

・心臓外来
・喘息・アレルギー外来
・新生児・未熟児発達外来
・神経外来
・遺伝外来
・新生児成育医療外来
・内分泌外来
・血液・腫瘍外来

病院全体の医師数	47 人	
小児科医師数	7 人	（うち非常勤　0 人） （ただし北大等よりの特殊外来を除く）

病院全体の病床数	260 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	31 床	
NICU 病床数	12 床	
新生児病床数(NICU を除く)	14 床	

NICU としての認定　　あり

平均小児科外来数	68 人/日	
平均時間外外来数	5 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,366 人/年	（＋新生児 584）
年間のべ入院患者数	7,439 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	362 人/年	（＋新生児 2,309）

年間分娩数	584 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	114 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	26 人/年
年間呼吸管理患者数	31 人/年

論文・著書など

1. Saitoh S, Hosoki K, Takano K and Tonoki H: Mosaic paternally derived inv dup(15) may partially rescue the Prader-Willi syndrome phenotype with uniparental disomy. Clin Genet 72: 378-380, 2007
2. Sato D, Kawara H, Shimokawa O, Harada N, Tonoki H, Takahashi N, Imai Y, Kimura H, Matsumoto N, Ariga T, Niikawa N and Yoshiura K: A Down syndrome girl with partial trisomy for 21 pter-q22.13: A clue to narrow the Down syndrome critical region. Am J Med Genet A 146: 124-127, 2008
3. 小西祥平、渡辺麻衣子、金田　眞、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣: 頚部リンパ節腫大に環軸椎回旋位固定を合併した 3 症例. 日本小児科学会雑誌 111: 1191-1195, 2007

学会発表

全国学会

1. 高垣匡志、外木秀文、林　純美: MRSA 発生報告書並びに調査票に基づく分析. 第 57 回日本病院学会、つくば市、2007/6/14-15
2. 外木秀文 他: Axenfeld-Rieger 奇形と Axenfeld-Rieger 症候群:6p25 の構造異常を持つ 2 症例の検討. 第 52 回日本人類遺伝学会、東京都、2007/9/14-15
3. 牧野恵子、外木秀文 他: リンクナース・リンクパーソンによる BSI サーベイランス活動. 第 23 回日本環境感染学会、長崎市、2008/2/22-23
4. 金井寿美子、外木秀文 他: リンクナース・リンクパーソンによる BSI サーベイランス活動. 第 23 回日本環境感染学会、長崎市、2008/2/22-23

地方学会、研究会、講演など

1. 外木秀文 他: 院内感染と職業感染：昨年度のノロウイルス施設内感染とインフルエンザについて. 第 9 回札幌感染管理研究会、札幌市、2007/7/21
2. 佐藤大介、高橋伸浩、外木秀文 他: アレイ CGH による詳細なゲノム解析が有用であったダウン症候群女児の 1 例. 第 10 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2007/11/10
3. 宮　卓也、砂田　哲、小簾菜穂、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣 他: 兄弟で発症した裂手裂足異常症. 第 10 回北海道出生前診断研究会、札幌市、2007/11/10
4. 渡部　恵、砂田　哲、小簾菜穂、宮　卓也、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文: 呼吸苦を初発症状とした急性リンパ性白血病の 1 例. 第 21 回天使病院地域医療連携講演会、札幌市、2007/11/16
5. 砂田　哲、小簾菜穂、宮　卓也、奥原宏治、脇口定衛、高橋伸浩、外木秀文、古賀康嗣、山本浩史: 先天性胆道拡張症 11 例の検討. 第 270 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2007/11/25

6. 外木秀文: 染色体検査法の進歩. 千歳・恵庭小児科医会講演会、千歳市、2008/2/8
7. 宮　卓也、砂田　哲、小簾菜穂、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、飯塚　進: 肝脾腫を合併した川崎病再発例. 平成20年第6回北区東区小児科医療研究会、札幌市、2008/2/9
8. 奥原宏治、宮　卓也、砂田　哲、小簾菜穂、脇口定衛、高橋伸浩、外木秀文、飯塚　進: 下血を繰り返し治療に難渋した血管性紫斑の 1 例. 平成 20 年第 6 回北区東区小児科医療研究会、札幌市、2008/2/9
9. 飯塚　進: 縦隔発症未熟胚細胞腫瘍の 1 例. 平成 20 年第 6 回北区東区小児科医療研究会、札幌市、2008/2/9
10. 外木秀文 他: Axenfeld-Rieger 症候群の遺伝学的な分類を試みるための研究 第一報. 第 32 回札幌市医師会医学会、札幌市、2008/2/17
11. 宮　卓也、砂田　哲、小簾菜穂、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、飯塚　進: ビタミン欠乏性くる病の 3 例. 第 272 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2008/2/24
12. 吉田知由、宮　卓也、砂田　哲、小簾菜穂、脇口定衛、奥原宏治、高橋伸浩、外木秀文、飯塚　進、山本浩史: 肥厚性幽門狭窄症におけるアトロピン静注療法と手術療法の比較. 第 272 回日本小児科学会北海道地方会、札幌市、2008/2/24

その他社会貢献など

なし

北海道社会保険病院

所属メンバー

・沢田　博行　（昭和 51 年卒）
・中山　承代　（昭和 56 年卒）
・岡嶋　　覚　（平成 2 年卒）
・古山　秀人　（平成 4 年卒）
・岡嶋　真紀　（平成 7 年卒）
・中島　　翠　（平成 16 年卒）（平成 19 年 10 月～）

卒後臨床研修医

１名

専門外来

・免疫アレルギー（中山 ×4~5/月）
・心臓（古山、衣川佳数 ×12/月）
・未熟児フォローアップ（沢田、岡嶋覚 ×12/月）
・神経（岡嶋真紀 ×4/月）
・その他の慢性外来（沢田、中山 ×8/月）
・腎臓（楠幸博 ×1/2 月）

病院全体の医師数　63 人
小児科医師数　5 人（うち常勤嘱託医　1 人）
（平成 19 年 10 月からは 6 人）

病院全体の病床数　314 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)　24 床
NICU 病床数　3 床　（平成 20 年 5 月より 6 床）
新生児病床数(NICU を除く)　3 床

NICU としての認定　あり

平均小児科外来数　89.2 人/日　（乳児健診、予防接種含む）
平均時間外外来数　3.9 人/日　(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数　1,465 人/年
年間のべ入院患者数　11,280 人/年　(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数　1,425 人/年

年間分娩数　439 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数　112 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数　11 人/年
年間呼吸管理患者数　25 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

手稲渓仁会病院

所属メンバー

・提嶋　俊一　（医長、昭和 51 年卒）（平成 19 年 5 月～）
・衣川　佳数　（部長、昭和 58 年卒）
・窪田　　満　（医長、昭和 61 年卒）
・南雲　　淳　（医長、平成元年卒）
・佐々木　康　（医長、平成 4 年卒）
・杉原　暁美　（医長、平成 6 年卒）（独自採用、医会員外）
・土畠　智幸　（医師、平成 15 年卒）（独自採用、医会員外）

非常勤医師
・三野　絵美　（医師、平成 8 年卒）
・羽田　美保　（医師、平成 14 年卒）（平成 19 年 4 月～8 月）

卒後臨床研修医

3 名

専門外来

・心臓外来（×9/週）; 金曜日午後以外すべて
・アレルギー・喘息（×2/週）
・消化器、代謝（×2/週）
・呼吸器（×1/週）
・神経（×1/週）
・免疫（×1/月）
・内分泌（×1/月）
・腎臓（×1/月）

病院全体の医師数	218 人	
小児科医師数	12 人	（うち非常勤　2 人、後期研修医　3 人）
病院全体の病床数	547 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く）	29 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く）	4 床	

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	81 人/日	
平均時間外外来数	12 人/日	（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	1,387 人/年	
年間のべ入院患者数	9,669 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	460 人/年	

年間分娩数	519 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	51 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	2 人/年
年間呼吸管理患者数	6 人/年

論文・著書など

1. 窪田　満: タンデム質量分析計による新生児マス・スクリーニングで発見されたプロピオン酸血症. 特殊ミルク情報, 2007/11

学会発表

全国学会

1. 窪田　満: 糖新生障害としての NICCD－肝機能障害改善後の低血糖とアシドーシス－. 第 34 回日本小児栄養消化器肝臓学会、仙台、2007/10/6-7
2. 窪田　満、戸田壮一郎: ファブリー病に対して早期に酵素補充療法を開始した 4 才男児例. 第 49 回日本先天代謝異常学会、山形、2007/11/15-18

地方学会、研究会、講演など

1. 戸田壮一郎、矢野杏奈、大北恵子、土畠智幸、佐々木康、杉原暁美、南雲　淳、窪田満、衣川佳数: ファブリー病に対して 4 歳 10 ヶ月で酵素補充療法を開始した一男児例. 日本小児科学会北海道地方会第 269 回例会、旭川市、2007/7/1
2. 野口真紀子、戸田壮一郎、矢野杏奈、大北恵子、土畠智幸、佐々木康、杉原暁美、南雲　淳、窪田　満、衣川佳数: 低血糖、高アンモニア血症によるけいれん、意識障害の 1 例－ピボキシル型抗生物質の関与－. 日本小児科学会北海道地方会第 269 回例会、旭川市、2007/7/1
3. 及川沙耶佳、戸田壮一郎、大北恵子、土畠智幸、佐々木康、杉原暁美、南雲　淳、窪田　満、衣川佳数: 気管支狭窄、側弯症に伴う慢性肺胞性低換気に対し在宅夜間 NPPV 療法を導入した一例. 日本小児科学会北海道地方会第 269 回例会、旭川市、2007/7/1
4. 窪田　満: ピボキシル型抗生物質が関与した低血糖、高アンモニア血症によるけいれん、意識障害の 1 例－タンデム質量分析計によるアシルカルニチン分析の有用性－. 第 6 回東北代謝異常症医療研究会、仙台、2007/7/13
5. 窪田　満: 日常診療における先天性代謝異常症. 札幌市小児科医会 9 月例会、札幌市、2007/9/25
6. 衣川佳数、佐々木康: 右心バイパス症例の臨床経過－特に、心機能、房室弁逆流について－. 北海道発達循環フォーラム、2007/10/6
7. 田中亮介、大北恵子、戸田壮一郎、土畠智幸、杉原暁美、南雲　淳、窪田　満: 当院における今シーズンの RS ウイルス感染症の流行とその治療. 日本小児科学会北海道地方会第 271 回例会、札幌市、2008/2/24

その他社会貢献など

なし

ＪＲ札幌鉄道病院

所属メンバー

・成田　光生　（主任医長、昭和 57 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

なし

病院全体の医師数	47 人	
小児科医師数	1 人	（うち非常勤　　0 人）
病院全体の病床数	312 床	（病棟改築中につき減床中）
小児科病床数(NICU、ベビーを除く）	0 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く）	0 床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	7 人/日	
平均時間外外来数	0 人/日	（小児科医が診察したものです）
年間入院患者数	0 人/年	
年間のべ入院患者数	0 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	0 人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

論文・著書など

1. Narita M and Tanaka H: Cytokines involved in the severe manifestations of pulmonary
diseases caused by Mycoplasma pneumoniae. Pediatr Pulmonol 42: 397, 2007
2. 成田光生: 麻疹（はしか）. 山口　徹、北原光夫、福井次矢 総編集「今日の治療指針 2007 年版」医学書院 東京: 157-158, 2007
3. 成田光生: マイコプラズマ感染症の診断（再感染の診断). 小児内科 39: 117, 2007
4. 成田光生: 血清診断法の現状と問題点. 病原微生物検出情報(国立感染症研究所)28:40-41, 2007
5. 成田光生: マイコプラズマ肺炎の抗菌剤療法. 病原微生物検出情報（国立感染症研所）28: 42-43, 2007
6. 成田光生: マイコプラズマ感染症診断における IgM 抗体迅速検出法の有用性と限界. 感染症学雑誌 81: 149-154, 2007
7. 成田光生: マイコプラズマ肺炎の診断と治療. 臨床画像 23: 647-657, 2007
8. 成田光生: 耐性肺炎マイコプラズマ. こどもの感染症の診かた 6: 17-18, 2007
9. 成田光生: マイコプラズマ肺炎. 「ナースとコメディカルが知っておきたい小児感染症」(アボットジャパン) 4 呼吸器感染症Ｉ: 6-7, 2007
10. 成田光生: 小児のマイコプラズマ肺炎. (新聞記事)育医事新聞 2007 年 11 月 25 日.
11. 成田光生: 薬剤耐性マイコプラズマの現状と今後の展望. モダンメディア 53: 297-306, 2007
12. 成田光生: イムノカード法の特性とマイコプラズマ感染症診断における問題点. 日本マイコプラズマ学会雑誌 34: 53-55, 2007

学会発表

全国学会

1. 成田光生: シンポジウム「マイコプラズマ肺炎流行拡大の背景」司会、座長. 第 34 回日本マイコプラズマ学会学術集会、和歌山 加太、2007/5
2. 成田光生: シンポジウム「マイコプラズマ肺炎流行拡大の背景」イムノカード法の特性とマイコプラズマ感染症診断における問題点. 第 34 回日本マイコプラズマ学会学術集会、和歌山、加太、2007/5

地方学会、研究会、講演など

1. 成田光生: マイコプラズマ診断の UpDate～イムノカード・ELISA 法などを中心に. 第 8 回札幌マクロライド研究会、札幌市、2007/1

2. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 9 回埼玉県西部地区小児感染症懇話会、川越市、2007/6
3. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 呼吸器感染症学術講演会、室蘭市、2007/7
4. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 363 回西部小児科臨床懇話会、福岡、2007/8
5. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 平成 19 年第 2 回旭川小児科医会、旭川市、2007/9
6. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 青森市小児科医会講演会、青森、2007/9
7. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 9 回浜松呼吸器感染症セミナー、浜松、2007/10
8. 成田光生: 特別講演　マイコプラズマ感染症　診断、耐性菌、発症機構に関する最近の話題. 第 5 回奈良小児呼吸器疾患研究会、奈良、2007/11

その他社会貢献など

北海道医療大学病院

所属メンバー

・柴田　睦郎　（昭和 55 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

なし

病院全体の医師数	16 人	
小児科医師数	1 人	（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	24 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	0 床	

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	22 人/日	
平均時間外外来数	0 人/日	（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	0 人/年	
年間のべ入院患者数	人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	人/年	

年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年	
年間呼吸管理患者数	人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

1. 柴田　睦郎: 教育講演「医療安全と感染管理」. 平成 19 年度日本歯科医療管理学会北海道支部例会、2007/10/13

その他社会貢献など

・日本小児呼吸器疾患学会　地区委員

愛育病院

所属メンバー

・加藤　幹子（昭和 60 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

なし

病院全体の医師数	15 人	
小児科医師数	1 人	（うち非常勤　0 人）
病院全体の病床数	180 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	0 床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	10 人/日	
平均時間外外来数	0~1 人/日	（小児科医が診察したものです）
年間入院患者数	109 人/年	
年間のべ入院患者数	344 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	0 人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

札幌北楡病院

所属メンバー

・小林　良二　（部長、昭和 59 年卒）
・安田　一恵　（部長、昭和 60 年卒）
・佐藤　智信　（医員、平成 9 年卒）

・小林　邦彦　（顧問、昭和 41 年卒）

卒後臨床研修医

6 名

専門外来

・血液外来（×1/週）

病院全体の医師数	47 人
小児科医師数	4 人（うち非常勤　1 人）

病院全体の病床数	231 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	22 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	17.8 人/日
平均時間外外来数	0.08 人/日（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	179 人/年
年間のべ入院患者数	3,867 人/年（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	12 人/年

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

論文・著書など

1. Kobayashi R, Tawa A, Hanada R, Horibe K, Tsuchida M and Tsukimoto I: Extramedullary infiltration at diagnosis and prognosis in children with acute myelogenous leukemia. Pediatric Blood & Cancer 48: 393-398, 2007
2. 小林良二、小島勢二: 小児血液疾患における治療法の進歩－再生不良性貧血－. 小児科 48: 1009-1017, 2007
3. Sato T, Kobayashi R, Toita N, Kaneda M, Hatano N, Iguchi A, Kawamura N and Ariga T: Stem cell transplantation in primary immunodeficiency disease patients. Pediatric International 49: 795-800, 2007
4. 小林良二、内田麻子、市川瑞穂、鈴木大介、佐藤智信、中嶋雅秀、三野絵美、鈴木秀久、金田　眞、佐々木了: 顔面発症の Primitive neuroectodermal tumor (PNET)症例. 小児がん 44: 50-54, 2007
5. Kobayashi R, Kaneda M, Sato T, Suzuki D, Ichikawa M and Ariga T: Evaluation of risk factors for invasive fungal infection after allogeneic stem cell transplantation in pediatric patients. J Pediatr Hematol Oncol 29: 786-791, 2007
6. Toita N, Hatano N, Ono S, Yamada M, Kobayashi R, Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Satoh A, Nakagawa A, Ohshima K, Shindoh M, Takami T, Kobayashi K and Ariga T: Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoma in a patient with DNA ligase IV (LIG4) syndrome. Am J Med Genet A 143: 742-745, 2007
7. Moriuchi R, Shibaki A, Yasukawa K, Onozuka T, Sato T, Kaneda M, Iguchi A, Kobayashi R and Shimizu H: Neonatal vesiculopustular eruption of the face: a sign of trisomy 21-associated transient myeloproliferative disorder. Br J Dermatol 156: 1373-1374, 2007
8. Suzuki D, Kobayashi R, Kaneda M, Sato T, Ichikawa M and Ariga T: Severe phimosis as a notable sequela of allogeneic stem cell transplantation in boys. Bone Marrow Transplantation 40: 335-338, 2007
9. 小林良二、鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田　眞: 小児造血幹細胞移植における micafungin による侵襲性真菌感染症予防の検討. 日本小児血液学会誌 21: 227-231, 2007
10. Kudo K, Kojima S, Tabuchi K, Yabe H, Tawa A, Imaizumi M, Hanada R, Hamamoto K, Kobayashi R, Morimoto A, Nakayama H, Tsuchida M, Horibe K, Kigasawa H and Tsukimoto I: A prospective study with repeated THP-Adriamycin, intermediate dose of cytarabine and etoposide regimen in children with Down syndrome and acute myeloid leukemia. J Clin Oncol 25: 5442-5447, 2007
11. 佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、中川温子、小林良二、有賀　正: 化学療法中に巨大な真菌性脳膿瘍と侵襲性肺真菌症を発症した小児骨髄性白血病. 臨床血液 48: 1549-1554, 2007

12. 小林良二、有賀　正、野々山恵章、金兼弘和、宮脇利男、土屋　滋、矢部晋正、永利義久、河　敬世、田渕　健、土田昌宏、加藤俊一: 本邦における Wiskott-Aldrich 症候群に対する造血幹細胞移植 57 例の解析. 厚生労働科学研究費補助金難治性疾患克服研究事業 原発性免疫不全症候群に関する調査研究 平成 18 年度総括・分担研究報告書: 25-27, 2007
13. Kosaka Y, Yagasaki H, Sano K, Kobayashi R, Ayukawa H, Kaneko T, Yabe H, Tsuchida M, Mugishima H, Ohara A, Morimoto A, Otsuka Y, Oga S, Bessho F, Nakahata T, Tsukimoto I and Kojima S: Prospective multicenter trial comparing repeated immunosuppressive therapy versus stem cell transplantation from an alternative donor as a second-line treatment for children with severe and very severe aplastic anemia. Blood 111: 1054-1059, 2008
14. Imashuku S, Okazaki N, Nakayama M, Fujita N, Fukuyama T, Koike K, Minato T, Kobayashi R, Morimoto A; for the Japan LCH Study Group: Treatment for neurodegenerative CNS disease in Langerhans cell histiocytosis with a combination of intravenous immunoglobulin and chemotherapy. Pediatric Blood &Cancer 50: 308-311, 2008
15. Imashuku S, Shiota Y, Kobayashi R, Koike K, Minato T, Okazaki N, Fujita N, Hosoi G, Fujimo T, Seto S, Kojima S, Oka A, Tsunematsu Y and Morimoto A: Neurodegenerative central nervous system disease as late sequelae of Langerhans cell histiocytosis; JLSG report. Haematologica 93: 615-618, 2008
16. Sato T, Kaneda M, Ichikawa M, Suzuki D, Nakagawa A and Kobayashi R. Current approaches to management of cerebral fungal infection in pediatric patients with hematological disorders. J Pediatr Hematol Oncol 30: 249-253, 2008
17. 佐藤智信、山本浩史、安田一恵、中川温子、小林良二、小林邦彦: 腹腔内破裂をきたした腎細胞癌の女児例. 小児がん 45: 51-55, 2008
18. Morimoto A, Kobayashi R, Maeda M, Asami K, Bessho F and Imashuku S: Impact of reactivation on the sequelae of multi-system Langerhans cell histiocytosis patients. Pediatric Blood & Cancer, in press
19. Miyakoshi S, Yamaguchi T, Ue M, Matsumura Y, Yuchi K, Narimatsu H, Takita M, Hisazumi E, Sakamaki T, Kasai K, Okada M, Osugi Y, Kobayashi R, Inoue M, Takahashi S, Takiguchi S and Kato S: Acute graft-versus-host disease following umbilical cord blood transplantation: Retrospective survey involving 2,015 Japanese patients. Transplantation, in press
20. Narimatsu H, Miyakoshi S, Yamaguchi T, Kami M, Matsumura T, Yuji K, Murashige N, Kusumi E, Kodama Y, Komatsu T, Sakamaki H, Kouzai Y, Okada M, Osugi Y, Kobayashi R, Inoue M, Takahashi S, Kai S, Kato K, Nagamura T, Taniguchi S and Kato S: Chronic graft-versus-host disease following umbilical cord blood transplantation: retrospective survey involving 1,072 patients in Japan. Blood, in press

21. Yoshida N, Yagasaki H, Takahashi Y, Yamamoto T, Liang J, Wang Y, Muramatsu H, Tanaka M, Hama A, Nishio N, Kobayashi R, Hotta N, Asami K, Kikuta A, Fukushima T, Hirano N and Kojima S: Clinical impact of HLA-DR15, a minor population of paroxysmal nocturnal hemoglobinuria-type cells, and an aplastic anemia-associated autoantibody in children with acquired aplastic anemia. Br J Hematol, in press
22. Kikuta H, Sakata C, Gamo R, Ishizaka A, Koga Y, Konno M, Ogasawara Y, Sawada H, Taguchi Y, Takahashi Y, Yasuda K, Ishiguro N, Hayashi A, Ishiko H and Kobayashi K: Comparison of a lateral-flow immunochromatography assay with real-time reverse transcription-PCR for detection of human metapneumovirus. J Clin Microbiol 46: 928-932, 2008

学会発表

全国学会

1. 小林良二、佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、小林穂高、長　祐子、飯塚　進: 非血縁者間骨髄移植生着不全の後に臍帯血移植で救命し得た再生不良性貧血症例. 第 14 回小児再生不良性貧血研究会、名古屋市、2007/6/2
2. 小林良二: 臍帯血移植と神経合併症およびシクロスポリン血中濃度モニタリングの検討. 小児造血幹細胞移植検討会、東京都、2007/11/2
3. 小林良二、鈴木信寛、吉田　真、飯塚　進、工藤　亨: 小児血液腫瘍性疾患患者に対する micafungin の有用性･安全性の検討. 第 49 回日本小児血液学会､仙台市､2007/12/15
4. 佐藤智信、山本浩史、安田一恵、小林良二、小林邦彦: 腹腔内破裂をきたした腎細胞癌の女児例. 第 23 回日本小児がん学会、仙台市、2007/12/15
5. 小林良二、佐藤智信、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、有賀　正: 小児血液腫瘍性疾患に合併した侵襲性真菌感染症 -単一施設における 10 年間の検討-. 真菌症フォーラム第 9 回学術集会、東京都、2008/2/9
6. 小林良二、鈴木大介、市川瑞穂、佐藤智信、金田　眞、有賀　正: 小児造血幹細胞移植における micafungin による侵襲性真菌感染症予防の検討(ワークショップ). 第 30 回日本造血細胞移植学会、大阪市、2008/3/1
7. 小林良二、佐藤智信、安田一恵、小林邦彦、窪田　満、竹田優子: 同胞間骨髄移植を行ったムコ多糖症Ⅱ型の 1 男児例. 先天代謝疾患造血幹細胞移植検討会、東京都、2008/3/20

地方学会、研究会、講演など

1. 佐藤智信、市川瑞穂、鈴木大介、金田　眞、小林良二、有賀　正: 化学療法中に接合菌と思われる脳膿瘍と侵襲性肺真菌症を発症した小児骨髄性白血病の 1 例. 日本血液学会北海道地方会、札幌市、2007/4
2. 小林良二: 小児悪性腫瘍に合併した真菌感染症症例の検討. 旭川小児血液勉強会、旭川市、2007/6/22
3. 小林良二、佐藤智信、稲本　潤、鈴木大介、市川瑞穂、金田　眞、有賀　正: 小児臍帯血移植 46 例の検討(シンポジウム). 第 49 回日本臨床血液学会北海道地方会、札幌市、2007/9/22
4. 佐藤智信、南雲　淳、窪田　満、安田一恵、小林良二、古川博之、小林邦彦: 寛解導入療法中に肝中心静脈閉塞症から肝不全に移行した急性リンパ性白血病の女児例. 北海道小児血液セミナー、旭川市、2007/9
5. 小林良二、佐藤智信、安田一恵、小林邦彦、國島伸治: 慢性血小板減少症の解析. 第 5 回豊平河畔小児医療研究会、札幌市、2007/11/16
6. 小林良二、佐藤智信、安田一恵、小林邦彦、國島伸治: 慢性血小板減少症の解析. 第 23 回北海道小児血液研究会、札幌市、2007/11/17
7. 佐藤智信、安田一恵、小林良二、小林邦彦: 再発後の化学療法中に消化性潰瘍を繰り返した急性リンパ性白血病の男児例. 北海道小児血液セミナー、札幌市、2008/2
8. 佐藤智信、金田　眞、安田一恵、小林良二、有賀　正、小林邦彦: 進行神経芽腫に対する造血幹細胞移植 12 例の検討. 第 33 回北海道小児がん研究会、札幌市、2008/3/7

その他社会貢献など

小林良二

・日本臨床血液学会評議員、幹事
・日本小児血液学会評議員、造血細胞移植委員会委員、ホームページ委員会委員長、評議員選任委員会委員
・日本造血細胞移植学会評議員、編集委員会委員
・日本小児がん学会評議員
・小児白血病研究会(JACLS)運営委員、監事、リンパ腫小委員会委員長、AML 小委員会委員
・小児白血病リンパ腫研究会(JPLSG)代議員、リンパ腫委員会委員
・札幌市学びの支援委員会委員
・札幌市立東白石小学校校医
・北海道臍帯血バンク運営委員会委員

楡の会こどもクリニック

所属医師

・石川　　丹　（昭和 48 年卒）
・高橋　有美　（平成 13 年卒）

卒後臨床研修医

専門外来

・北大精神科 傳田健三教授外来（×1/週）木曜日

病院全体の医師数	3 人	
小児科医師数	2 人	（うち非常勤　　人）

病院全体の病床数	16 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	4 床	12 床はショートステイ用
NICU 病床数	床	
新生児病床数(NICU を除く)	床	

NICU としての認定　　なし

平均小児科外来数	128 人/日	
平均時間外外来数	わずか 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	51 人/年	
年間のべ入院患者数	14,382 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	わずか 人/年	

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

論文・著書など

1. 柳生一自、石川　丹: アテトーゼ型脳性麻痺、精神遅滞をもつ若年男性の転換性障害に対して心理療法、ケースワークを行い改善した 1 例. 小児科臨床 60: 1667-1671, 2007
2. 石川　丹: 遊びは言葉を育てる. 小児科臨床 60: 2153-2159, 2007
3. 石川　丹、柳生一自: 極端な偏食を呈した 4 歳児に対する親子心理療法. 臨床小児医学 55: 17-19, 2007
4. 柳生一自、石川　丹: バルプロ酸投与にて Fanconi 症候群を発症した重症心身障害児の 1 例. 臨床小児医学 55: 112-116, 2007
5. 石川　丹、高橋有美、末田慶太朗、柳生一自: 子どもの攻撃性に対する risperidone の心理学的有用性. 臨床小児医学 55: 117-120, 2007
6. 石川　丹、柳生一自: 衝動的攻撃的 4 歳男児の精神発達治療. 第 32 回札幌市医師会医学会誌: 225-226, 2007
7. 岡部善也、石川　丹、末田慶太朗: 過換気症候群 10 歳児例の心理治療～感情認知と表現に焦点を当てた関わり～. 乳幼児療育研究 20: 58-62, 2007

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

江別市立病院

所属メンバー

・梶井　直文　（院長、昭和 51 年卒）
・信太　　知　（主任部長、昭和 59 年卒）
・板倉　　治　（部長、昭和 61 年卒）
・越　　和子　（部長、昭和 49 年卒）
・帯金　克行　（部長、平成 7 年卒）
・渡辺　美紀　（非常勤医、毎週木曜日外来担当、平成 9 年卒）非医会員

卒後臨床研修医

単独型初期研修医 2 年目　1 名

専門外来

・神経・発達外来（×4/月、梶井担当）
・肥満・夜尿症外来（×4/月、梶井担当）
・心臓外来（×4/月、信太担当）
・腎臓外来（×4/月、帯金担当）
・血液外来（×/2 月、長　祐子先生担当）

病院全体の医師数	32 人	
小児科医師数	6 人	（うち非常勤 1 人）
病院全体の病床数	337 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く）	24 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く）	0 床	

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	人/日	
平均時間外外来数	人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	人/年	
年間のべ入院患者数	人/年	（入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

論文・著書など

1. 梶井直文: 医療；へき地の「いのち」を守り、育む. 厚生労働 62：2007

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

1. 岩佐　翼、帯金克行、越　和子、板倉　治、信太　知、梶井直文: ビタミン K 欠乏により頭蓋内出血をきたした 21 トリソミーの 1 例. 江別小児科医会研修会、江別市、2007/9/14

その他社会貢献など

1. 江別市学校医: 梶井、信太、板倉、越、帯金
2. 江別市保育園医: 信太、板倉、越、帯金
3. 江別市児童福祉施設嘱託医: 梶井
4. 江別市心臓検診判定委員: 信太
5. 江別市教育委員会就学判定委員会副委員長: 梶井
6. 北海道江別保健所及び千歳保健所感染症診査協議会委員: 梶井

市立美唄病院

所属メンバー

・永田　　康　（副院長、診療部長、昭和 50 年卒）
・小川　泰弘　（主任医長、昭和 61 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

・心臓外来（×1/月）
・内分泌外来（×1/月）

病院全体の医師数	11 人	
小児科医師数	2 人	（うち非常勤　0 人）
病院全体の病床数	209 床	（一般 195 床）
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	19 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	0 床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	51.0 人/日	
平均時間外外来数	3.4 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	49 人/年	
年間のべ入院患者数	324 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	6 人/年	
年間分娩数	人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年	
年間呼吸管理患者数	人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

・美唄市就学指導委員（永田　康）

・美唄市国保運営協議会委員（永田　康）

美唄労災病院

所属メンバー

・秋野　信子　（昭和 43 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

・心臓外来（×1/月）
・神経外来（×1/6 月）

病院全体の医師数 20 人
小児科医師数 1 人（うち非常勤 0 人）

病院全体の病床数 150 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 0 床
NICU 病床数 0 床
新生児病床数(NICU を除く) 0 床

NICU としての認定 なし

平均小児科外来数 20 人/日
平均時間外外来数 0 人/日 （小児科医が診察したものです）

年間入院患者数 5 人/年
年間のべ入院患者数 人/年 （入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数 人/年

年間分娩数 0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0 人/年
年間呼吸管理患者数 0 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

市立三笠総合病院

所属メンバー

・三山　隆司　（昭和 45 年卒）

卒後臨床研修医

2 人

専門外来

・心臓外来（×1/年）

病院全体の医師数 17 人
小児科医師数 1 人 (うち非常勤 人)

病院全体の病床数 199 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く) 4 床
NICU 病床数 0 床
新生児病床数(NICU を除く) 0 床

NICU としての認定 なし

平均小児科外来数 19 人/日
平均時間外外来数 人/日 (小児科医が診察したものです)

年間入院患者数 31 人/年
年間のべ入院患者数 96 人/年 (入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数 5 人/年

年間分娩数 0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数 0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数 0 人/年
年間呼吸管理患者数 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

市立小樽病院

所属メンバー

・小田川泰久　（医長、昭和 59 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

・神経外来（×1/2 月）
・心臓外来（×1/週）

病院全体の医師数	25 人	
小児科医師数	1 人	（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	309 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	0 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定　　なし

平均小児科外来数	20 人/日	
平均時間外外来数	0 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	0 人/年	
年間のべ入院患者数	0 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	0 人/年	

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

倶知安厚生病院

所属メンバー

・奥野　章裕　（主任部長、昭和 55 年卒）
・森田　啓介　（部長、平成元年卒）

卒後臨床研修医

2 人

専門外来

・心臓外来（×1/月）

病院全体の医師数	27 人	
小児科医師数	2 人	（うち非常勤　0 人）
病院全体の病床数	392 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	12 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	35.7 人/日	
平均時間外外来数	2.2 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	498 人/年	
年間のべ入院患者数	2,409 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	113 人/年	
年間分娩数	343 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	23 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	1 人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

岩内協会病院

所属メンバー

・浜崎　和朗　（平成 5 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

・神経（白石秀明 ×1/3 月）
・免疫アレルギー（川村信明 ×1/2 月）

病院全体の医師数	5 人	
小児科医師数	1 人	（うち非常勤　0 人）
病院全体の病床数	240 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く）	0 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く）	0 床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	39.4 人/日	
平均時間外外来数	1 人/日	（小児科医が診察したものです）
年間入院患者数	146 人/年	
年間のべ入院患者数	593 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	0 人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

市立千歳市民病院

所属メンバー

・構丸　博幸　（診療部長、昭和 51 年卒）
・波多野典一　（主任医長、平成 4 年卒）
・簗詰　典子　（主任医長、平成 10 年卒）
・大塚　耕右　（医員、平成 15 年卒）

卒後臨床研修医

1 名

専門外来

・心臓外来（×2/月）
・神経外来（×1/月）
・内分泌外来（×2/月）
・腎・アレルギー外来（×1/月）

病院全体の医師数	35 人
小児科医師数	4 人（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	190 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	16 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	2 床

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	100 人/日
平均時間外外来数	10 人/日（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	989 人/年
年間のべ入院患者数	4,305 人/年（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	142 人/年

年間分娩数	360 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	10 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

・構丸　博幸: 「小児救急ハンドブック」千歳市医師会発行

・構丸　博幸: 「小児科の救急医療について」. 千歳市救急医療フォーラムにて発表

恵み野病院

所属メンバー

・畑江　芳郎　（昭和 44 年卒）

卒後臨床研修医

２名

専門外来

なし

病院全体の医師数	30 人
小児科医師数	1 人 （うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	200 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	2 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	15 人/日
平均時間外外来数	人/日 （小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	125 人/年
年間のべ入院患者数	541 人/年 （入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	人/年

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

王子総合病院

所属メンバー

・内藤　広行　（主任科長、昭和 57 年卒）
・小林　徳雄　（科長、昭和 61 年卒）
・鈴木　秀久　（科長、平成 7 年卒）
・兼次　洋介　（医師、平成 16 年卒）
・卯月ゆたか　（医師、平成 17 年卒）

卒後臨床研修医

2 名

専門外来

・心臓外来（×1/月）
・腎臓外来（×1/月）
・内分泌外来（×1/月）
・神経外来（×1/週）

病院全体の医師数	65 人	
小児科医師数	5 人	(うち非常勤　0 人)

病院全体の病床数	413 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	21 床
NICU 病床数	5 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定　　なし

平均小児科外来数	68.0 人/日	
平均時間外外来数	2.8 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	936 人/年	
年間のべ入院患者数	6,202 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	199 人/年	

年間分娩数	537 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	76 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	4 人/年
年間呼吸管理患者数	8 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

1. 兼次洋介: 異なる病型を呈した若年生特発性関節炎(JIA)の姉弟例. 第 17 回日本小児リウマチ学会総会、横浜市、2007/9/29

地方学会、研究会、講演など

1. 兼次洋介、卯月ゆたか、鈴木秀久、小林徳雄、内藤広行: メッケル憩室による腸重積の 9 歳男児例. 第 59 回北日本小児科学会、弘前市、2007/9/15
2. 卯月ゆたか、田島敏広: 当科で最近経験したバセドウ病の 2 例－甲状腺機能正常化に要したメチマゾール量の検討－. 第 29 回北海道小児内分泌研究会、札幌市、2008/1/26
3. 兼次洋介、卯月ゆたか、鈴木秀久、小林徳雄、内藤広行: 早期に再発したＢ群連鎖球菌(GBS)感染症の一乳児例. 日本小児科学会北海道地方会第 271 回例会、札幌市、2008/2/24

その他社会貢献など

内藤広行

・苫小牧市立若草小学校校医

小林徳雄

・北海道苫小牧保健所感染症審査協議会委員
・苫小牧市保健センター評議員
・ふたば幼稚園園医

日鋼記念病院

所属メンバー

・岩田　正道　（昭和 62 年卒）
・小野　　暁　（昭和 63 年卒）
・小杉山清隆　（平成 7 年卒）
・松波由貴子　（平成 16 年卒）
・伊丹　儀友　（腎センター所長、昭和 52 年卒）

卒後臨床研修医

1 名

専門外来

・心臓外来（×1/月）
・神経外来（×2/月）
・血液外来（×1/2 月）
・内分泌外来（×1/3 月）
・遺伝外来（×1/3 月）
・発達外来（×7/月）

病院全体の医師数	95 人	
小児科医師数	5 人	(うち非常勤　0 人)

病院全体の病床数	485 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	20 床
NICU 病床数	3 床
新生児病床数(NICU を除く)	5 床

NICU としての認定　　あり

平均小児科外来数	人/日	
平均時間外外来数	人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	人/年	
年間のべ入院患者数	人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	人/年	

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

新日鐵室蘭総合病院

所属メンバー

・佐藤　大介　（平成 10 年卒）

卒後臨床研修医

2 名

専門外来

・神経外来
・内分泌外来
・心臓外来

病院全体の医師数	59 人	（研修医 10 名、嘱託医、出張医を除く）
小児科医師数	2 人	（うち非常勤　1 人）

病院全体の病床数	347 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く）	5 床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く）	3 床

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	12 人/日	
平均時間外外来数	0 人/日	（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	300 人/年	
年間のべ入院患者数	1,752 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	10 人/年	

年間分娩数	455 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	15 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

市立旭川病院

所属メンバー

・小西　貴幸　（昭和 54 年卒）
・佐竹　　明　（昭和 62 年卒）
・中嶋　雅秀　（平成 8 年卒）
・植田　佑樹　（平成 15 年卒）

卒後臨床研修医

1 名（2 ヶ月ずつ）

専門外来

・心臓外来（毎週）
・川崎病外来（毎週）
・腎臓外来（毎月）
・血液外来（毎月）
・神経外来（毎週）

病院全体の医師数	88 人	
小児科医師数	4 人	（うち非常勤　0 人）
病院全体の病床数	548 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	23 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	2 床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	66.2 人/日	
平均時間外外来数	約 5 人/日	（小児科医が診察したものです）
年間入院患者数	960 人/年	
年間のべ入院患者数	4,222 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	人/年	
年間分娩数	200 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	1 人/年	

論文・著書など

1. 稲本　潤、小関直子、中嶋雅秀、佐竹　明、小西貴幸: インフリキシマブが著効した、難治性川崎病の 17 歳女児例. 小児科臨床 60(7): 1597-1604, 2007

学会発表

全国学会

地方学会、研究会、講演など

1. 小関直子、稲本　潤、中嶋雅秀、佐竹　明、小西貴幸: 舌咽神経麻痺をきたした 7 歳川崎病の 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 268 回例会、札幌市、2007/2
2. 中嶋雅秀: 臍帯血移植後に難治性前頭葉てんかんを発症した ALL の一例. 第 1 回旭川小児血液勉強会、旭川市、2007/6

その他社会貢献など

1. 小西貴幸: 小児の初期救急医療. 北海道小児救急地域医師研究会、旭川市、2007/11
2. 小西貴幸: 子どもを見守り、支えるということ. 平成 19 年度旭川市 PTA 母親研修会、旭川市、2007/12

北見赤十字病院

所属メンバー

・三河　　誠　（昭和 50 年卒）
・小林　一郎　（昭和 59 年卒）
・斎田　吉伯　（平成 5 年卒）
・那須　　敬　（平成 5 年卒）
・中島　　翠　（平成 16 年卒）（〜平成 19 年 9 月）
・小関　直子　（平成 16 年卒）
・筌場友佳代　（平成 17 年卒）

卒後臨床研修医

2 名

専門外来

・未熟児フォローアップ
・アレルギー
・心臓
・発達
・腎臓
・神経
・肥満
・内分泌
・血液
・言葉

病院全体の医師数	常勤 99 人	初期研修医２５人
小児科医師数	7 人	（うち非常勤 0 人）

病院全体の病床数	680 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く）	33 床
NICU 病床数	6 床
新生児病床数(NICU を除く）	18 床

NICU としての認定　　あり

平均小児科外来数	85 人/日	
平均時間外外来数	9.3 人/日	（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	1,453 人/年	
年間のべ入院患者数	14,824 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	534 人/年	

年間分娩数	339 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	90 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	13 人/年
年間呼吸管理患者数	15 人/年

論文・著書など

1. Toita N, Hatano N, Ono S, Yamada M, Kobayashi R, Kobayashi I, Kawamura N, Okano M, Satoh A, Nakagawa A, Ohshima K, Shindoh M, Takami T, Kobayashi K and Ariga T: Epstein-Barr virus-associated B-cell lymphoma in a patient with DNA ligase IV (LIG4) syndrome. Am J Med Genet Part A 143A: 742-745, 2007
2. Fuchizawa T, Adachi Y, Ito Y, Higashiyama H, Kanegane H, Futatani T, Kobayashi I, Kamachi Y, Sakamoto T, Tsuge I, Tanaka H, Banham AH, Ochs HD and Miyawaki T: Developmental changes of FOXP3-expressing $CD4^{+}CD25^{+}$ regulatory T cells and their impairment in patients with FOXP3 gene mutations. Clin Immunol 125: 237-246, 2007
3. Okura Y, Shiari R, Hattori Y, Matsuzawa T, Miyazaki Y, Hayashi Y and Kobayashi I: Epitope mapping of anti-α-fodrin antibody in a case of early-onset multiple sclerosis. Pediatr Int 50: 135-137, 2008
4. 三河　誠: 新生児疾患：低出生体重児の無呼吸発作. 今日の治療指針（山口徹、北原光夫、福井次矢編）医学書院: 981-982, 2008

学会発表

全国学会

1. 兼次洋介、植田祐樹、那須　敬、斉田吉伯、三河　誠、小林一郎: 異なる病型を呈した若年性特発性関節炎(JIA)の姉弟例. 第 17 回小児リウマチ学会、横浜市、2007/9/28-30
2. 筌場友佳代、小関直子、中島　翠、斉田吉伯、那須　敬、三河　誠、伊藤嘉規、木村浩、金兼弘和、小林一郎: NK 細胞優位の感染が証明された EBV 関連血球貪食リンパ増殖組織球症の一例. 第 39 回日本小児感染症学会、横浜市、2007/10/9-11

地方学会、研究会、講演など

1. 筌場友佳代、小関直子、中島　翠、斉田吉伯、那須　敬、三河　誠、伊藤嘉規、木村宏、小林一郎: NK 細胞優位の感染が証明された EB ウイルス関連血球貪食症候群の一例. オホーツク臨床免疫懇話会、北見市、2007/7/1
2. 小関直子、筌場友佳代、斎田吉伯、那須　敬、小林一郎、三河　誠: 弟の出血を契機に見つかった重症血友病 A の兄弟例. 日本小児科学会北海道地方会第 270 例会、札幌市、2007/11/25
3. 小林一郎: 会長シンポジウム　自己免疫疾患の発症要因　自己免疫疾患と環境因子―特に感染症との関係―. 第 17 回小児リウマチ学会、横浜市、2007/9/28-30
4. 小林一郎: ウイルス感染に対する対応～インフルエンザ・麻疹・ノロを中心に～. 北見地区院内感染対策講演会、北見赤十字病院大講堂、2007/11/22

その他社会貢献など

なし

美幌町立国保病院

所属メンバー

・髙橋　富彦　（昭和 60 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

なし

病院全体の医師数	6 人
小児科医師数	1 人（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	99 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	床
NICU 病床数	0 床
新生児病床数(NICU を除く)	0 床

NICU としての認定　　なし

平均小児科外来数	15 人/日
平均時間外外来数	0.14 人/日（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	39 人/年
年間のべ入院患者数	122 人/年（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	13 人/年

年間分娩数	0 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年
年間呼吸管理患者数	0 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

函館中央病院

所属メンバー

・山田　　豊　（副院長、昭和 47 年卒）
・水上　　晋　（科長、昭和 59 年卒）
・木田　　毅　（未熟児センター長、昭和 60 年卒）
・大湯　淳功　（医長、昭和 63 年卒）（～平成 19 年 8 月）
・佐々木真樹　（医長、平成 2 年卒）
・高梨久仁子　（医員、平成 16 年卒）
・山崎　健史　（医員、平成 17 年卒）

・綿谷　靖夫　（臨床顧問、昭和 44 年卒）
※　会員ではありません．外来を手伝っていただいています．

卒後臨床研修医

9 名

専門外来

・心臓外来（×1/週）＋ 心エコー外来（×2/週）
・神経外来（×2/週）
・未熟児発達外来（×4/週）
・予防接種外来（×2/週）
・血液外来（×1/月）
・腎臓（×1/3～4 月）
・遺伝外来（×1/6 月）

病院全体の医師数　91 人
小児科医師数　8 人（うち非常勤　人）

病院全体の病床数　544 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)　27 床
NICU 病床数　6 床
新生児病床数(NICU を除く)　19 床

NICU としての認定　あり

平均小児科外来数　75.9 人/日
平均時間外外来数　6.7 人/日(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数　1,647 人/年
年間のべ入院患者数　16,083 人/年（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数　547 人/年

年間分娩数　760 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数　108 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数　28 人/年
年間呼吸管理患者数　46 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

1. 山崎健史、高梨久仁子、佐々木真樹、木田　毅、水上　晋、綿谷靖彦、山田　豊: ロタ胃腸炎による高 Na 血症を呈した 1 例. 平成 19 年度第 1 回函館小児科医会症例検討会、函館中央病院講堂、2007/5/25
2. 水上　晋、山崎健史、高梨久仁子、佐々木真樹、木田　毅、綿谷靖彦、山田　豊: Reversible posterior leukoencephalopathy の 1 例. 平成 19 年度第 1 回函館小児科医会症例検討会、函館中央病院講堂、2007/5/25
3. 山田　豊、山崎健史、佐々木真樹、水上　晋: 治療に難渋している疼痛性障害の 1 女児例.第 46 回青函小児科懇話会、浅虫温泉・道の駅「ゆ～さ浅虫」、2007/8/25
4. 山崎健史、山田　豊、水上　晋、佐々木真樹: 急性化膿性甲状腺炎の一例. 第 59 回北日本小児科学会、弘前大学医学部コミュニケーションセンター、2007/9/15

その他社会貢献など

1. 山田　豊: 市民健康教室で講演「子どもの病気—最近の話題」. 市立函館保健所、2007/5/24

函館五稜郭病院

所属メンバー

・遠藤満智子　（診療部長、昭和 45 年卒）
・岩井　　崇　（小児科科長、昭和 58 年卒）
・阿部　修司　（小児科医長、平成 3 年卒）
・藤田　祥二　（小児科医長、平成 7 年卒）
・石倉（佐藤）亜矢子　（平成 8 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

・内分泌
・アレルギー・喘息
・乳児検診（予防接種）
・神経
・血液
・腎

病院全体の医師数　78 人
小児科医師数　5 人（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数　586 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)　26 床
NICU 病床数　0 床
新生児病床数(NICU を除く)　4 床

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数　54.4 人/日
平均時間外外来数　4.1 人/日（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数　903 人/年（新入院）
年間のべ入院患者数　6,318 人/年（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数　256 人/年

年間分娩数　453 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数　41 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数　0 人/年
年間呼吸管理患者数　30 人/年

論文・著書など

1. 石倉亜矢子、藤田祥二、阿部修司、岩井　崇、遠藤満智子、鈴木勝雄、萩沢正博: 血液浄化療法を施行した後、移植のために転院となった劇症肝炎の 1 乳児例. 函館五稜郭病院医誌 16: 23-26, 2008

学会発表

全国学会

1. 遠藤満智子: 肥満小児におけるメタボリック症候群と NAFLD について. 第 28 回日本肥満学会、東京都、2007/10/19
2. 阿部修司: 異性性思春期早発例の 1 例－aromatase 活性亢進か？－. 第 41 回日本小児内分泌学会学術集会、横浜市、2007/11/8

地方学会、研究会、講演など

1. 阿部修司: 重症仮死で出生したため診断が遅くなったリジン尿性蛋白不耐症の 1 例. 日本小児科学会北海道地方会第 269 回例会、札幌市、2007/7/1
2. 石倉亜矢子: 新生児心房粗動の 1 例. 第 46 回青函小児科懇話会、青森、2007/8/26
3. 石倉亜矢子: 川崎病急性期に開鼻声（一過性右舌咽神経麻痺）が出現した 1 例. 第 8 回北海道川崎病研究会、札幌市、2007/9/8
4. 岩井　崇: 肺炎球菌性髄膜炎に伴う高度難聴に対して両側人工内耳埋め込み術を施行した女児例. 日本小児科学会北海道地方会第 270 回例会、札幌市、2007/11/25

その他社会貢献など

なし

帯広協会病院

所属メンバー

・青柳　勇人　（主任医長、平成 3 年卒）
・田中　洋充　（医師、平成 13 年卒）
・秋元　琢真　（医師、平成 15 年卒）
・宮城　崇史　（医師、平成 17 年卒）

卒後臨床研修医

1 名（半年間）

専門外来

・神経外来（×1/3 月）
・腎臓外来（×1/3 月）
・内分泌外来（×1/3 月）
・血液外来（×1/2 月）

病院全体の医師数	40 人	
小児科医師数	4 人	（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	360 床
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	31 床
NICU 病床数	7 床
新生児病床数(NICU を除く)	床

NICU としての認定　　なし

平均小児科外来数	74.6 人/日	
平均時間外外来数	1.261 人/日	(小児科医が診察したものです)

年間入院患者数	1,585 人/年	
年間のべ入院患者数	10,694 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	386 人/年	

年間分娩数	620 人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	38 人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	5 人/年
年間呼吸管理患者数	2 人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

1. 宮城崇史、秋元琢真、田中洋充、青柳勇人、高杉尚吾、國島康晴: 原発性巨大尿管症を伴う続発性偽性低アルドステロン症の一例. 日本小児科学会北海道地方会第 270 回例会、札幌市、2007/11/25
2. 宮城崇史、秋元琢真、田中洋充、青柳勇人、成田光生: マイコプラズマ感染症の経過中に横紋筋融解症を発症した一例. 日本小児科学会北海道地方会第 270 回例会、札幌市、2007/11/25

その他社会貢献など

なし

帯広厚生病院

所属メンバー

・松本　憲則　（第 1 主任部長、昭和 55 年卒）
・植竹　公明　（第 2 主任部長、昭和 59 年卒）
・岡本　孝之　（医員、平成 15 年卒）
・藤原　伸一　（医員、平成 16 年卒）
・泉　　　岳　（医員、平成 16 年卒）
・杉山未奈子　（医員、平成 17 年卒）

卒後臨床研修医

14 名（1 年間に小児科を研修したもの）

専門外来

・神経外来（×1/週）
・発達外来（×1/週）
・心臓外来（×2/月）
・免疫外来（×1/月）
・血液外来（×1/月）
・内分泌外来（×1/3 月）
・腎外来（×1/3 月）
・遺伝外来（×1/6 月）

病院全体の医師数	142 人	
小児科医師数	6 人	（うち非常勤 0 人）
病院全体の病床数	748 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	25 床	
NICU 病床数	3 床	
新生児病床数(NICU を除く)	10 床	
NICU としての認定	なし	
平均小児科外来数	109 人/日	
平均時間外外来数	14.0 人/日	（小児科医が診察したものです）
年間入院患者数	1,025 人/年	
年間のべ入院患者数	13,128 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	390 人/年	
年間分娩数	543 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	72 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	14 人/年	
年間呼吸管理患者数	17 人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

1. 松本憲則: 十勝地方における RSV 感染症の現状. 第 3 回北海道先天性心疾患研究会、札幌市、2007/8/4

その他社会貢献など

なし

釧路赤十字病院

所属メンバー

・永島　哲郎　（昭和 50 年卒）
・仲西　正憲　（昭和 56 年卒）
・田原　泰夫　（昭和 59 年卒）
・鈴木　靖人　（平成 7 年卒）
・中村　明枝　（平成 14 年卒）
・古瀬　優太　（平成 15 年卒）
・佐々木　理　（平成 16 年卒）
・濱野　貴通　（平成 17 年卒）

卒後臨床研修医

3 名
（他に釧路労災病院の研修医 2 年目 1 名が 2 ヶ月間小児科で臨床研修）

専門外来

・神経疾患外来（×1/週）
・喘息アレルギー疾患外来（×1/週）
・心臓疾患外来（×2/週）

大学等他施設からの出張医による専門外来
・心臓外来（×3/月）
・血液悪性腫瘍外来（×1/3 月）
・内分泌代謝外来（×1/3 月）
・腎臓外来（×1/3 月）

病院全体の医師数	64 人	
小児科医師数	8 人	（うち非常勤　1 人）
病院全体の病床数	489 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	42 床	
NICU 病床数	9 床	
新生児病床数(NICU を除く)	9 床	
NICU としての認定	あり	
平均小児科外来数	145.5 人/日	
平均時間外外来数	4.0 人/日	（小児科医が診察したものです）
年間入院患者数	3,189 人/年	
年間のべ入院患者数	17,656 人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	456 人/年	
年間分娩数	1,587 人/年	（年間出生数　1,569 人/年）
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	208 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	12 人/年	
年間呼吸管理患者数	60 人/年	（D-PAP 治療を含む）

論文・著書など

1. 盛一享徳、仲西正憲、村上智明: パルボウイルス心筋炎による心不全に対するベータ遮断薬の効果. 日本小児科学会雑誌 111: 765-769, 2007

学会発表

全国学会

１題

地方学会、研究会、講演など

９題

その他社会貢献など

なし

町立中標津病院

所属メンバー

・富澤　一浩　（昭和 57 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

なし

病院全体の医師数	20 人	
小児科医師数	2 人	（うち非常勤　0 人）

病院全体の病床数	199 床	
小児科病床数(NICU、ベビーを除く)	8 床	
NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	2 床	

NICU としての認定　　なし

平均小児科外来数	人/日	
平均時間外外来数	人/日	（小児科医が診察したものです）

年間入院患者数	人/年	
年間のべ入院患者数	人/年	（入院患者数×入院日数）
年間時間外入院患者数	人/年	

年間分娩数	人/年
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	人/年
極低出生体重児(1,500g 未満)数	人/年
年間呼吸管理患者数	人/年

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

なし

市立根室病院

所属メンバー

・小堤　圀雄　（昭和 49 年卒）

卒後臨床研修医

なし

専門外来

・神経外来
・内分泌外来
・循環器疾患外来

NICU 病床数	0 床	
新生児病床数(NICU を除く)	0 床	

NICU としての認定　なし

平均小児科外来数	53.6 人/日	
平均時間外外来数	5.96 人/日	(小児科医が診察したものです)
年間入院患者数	484 人/年	
年間のべ入院患者数	2,129.6 人/年	(入院患者数×入院日数)
年間時間外入院患者数	161 人/年	
年間分娩数	0 人/年	
年間低出生体重児(2,500g 未満)数	0 人/年	
極低出生体重児(1,500g 未満)数	0 人/年	
年間呼吸管理患者数	72 人/年	

論文・著書など

なし

学会発表

全国学会

なし

地方学会、研究会、講演など

なし

その他社会貢献など

・予防接種事業の普及